

平成30年度事業実績報告 (案)

自：平成30年4月 1日
至：平成31年3月31日

目次

事業実施状況並びに期末評価	1～23
事業別利用実績	24、25
年度別利用率の推移	26
利用者の状況	27、28
事業・職種別職員数一覧	29
職員の動向等	30
施設外研修一覧	31～33
施設内研修一覧、資格取得状況一覧	33
外部実習受入及び地域交流等の状況	34、35
苦情解決	36
地域包括支援事業（上越市受託事業）	37～39

社会福祉法人 上越頸城福社会
しおさいの里等複合施設

特別養護老人ホームしおさいの里
障害者支援施設 さいはま園
デイサービスセンターゆりかご荘
しおさいの里居宅介護支援事業所
しおさいの里地域包括支援センター

平成 30 年度 事業実施状況ならびに期末評価 (案)

1-1) しおさいの里等複合施設全体

事業目標：六華プロジェクトを継続し、地域と共存しながら、関わるすべての人たちが生き生きと感じられる事業運営の深化・推進を目指します。

- 重点目標 1：地域との関わりの充実を目指す。
 2：質の高いサービスの実現を目指す。
 3：人材の確保と生産性の向上

重点目標	実施状況・期末評価
<p>①地域包括支援センターが大潟・頸城両区に事業が拡大した。地域に根差したサービスの推進のため、事業の安定化を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4月2日、頸城コミュニティプラザ内で開所式ののち、新体制での業務を開始。年度初めより関係機関、団体等への挨拶回りや地域回覧版、市健康診断等でのチラシの配布等、センターの周知活動を行った。その結果、頸城地区における住民からの相談件数も増加している。また、虐待等の困難ケースも複数あり、行政や関係機関と協働で対応した。また、頸城地区においては実態把握訪問や地域サロン、老人クラブ活動に積極的に出向き、地域住民との関わりを通じて地域特性を理解・把握し、正確に地域診断をして地域性を尊重した支援に努めている。 ・法人組織の活性化や更なる強化を目的に10/1付で職員2名の異動を行った。(居宅支援部門⇔地域包括部門) ・居宅支援部門・デイサービス部門において頸城区からの利用者の担当依頼が増えており、今後の受入れについても積極的に進めていきたい。 ・頸城地区公民館明治分館協議会から、地域住民を対象とした介護予防事業を立ち上げるにあたり、地域包括支援部門に運営に関する協力依頼があった。当法人としてはデイサービス部門の職員が脳トレ、健康体操の指導者として協力することとした。(8月より) ・頸城区では「みんなが暮らしやすい地域づくりを考えよう～地域(町内)で支え合うために、今私たちにできることは何か～」をテーマにした地域ケア会議を主催者として初めて開催した(11/27)。 ・次年度に向けて、大潟区ならびに頸城区それぞれの地域性に配慮しつつ、一事業所として拠点包括とサテライトが一体かつ効率的な運営体制の構築を目指したいと考える。
<p>②地域や関係機関等、外部との交流を促進することで、地域に暮らす高齢者の活躍の場の提供や施設利用者の生活支援の充実に努めます(施設内クラブ活動の充実とボランティアの積極的な受け入れ。夕映えの郷とのさらなる業務連携等)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動等で利用者とボランティアの方々との交流を通じて信頼関係や生活の質の向上に繋がっている。また、職員も一緒に活動することで、利用者の可能性を見出すことにも繋がっている。 ＜ボランティアの受入れ状況(30年度実績)＞ ・延受入回数：255回　・延受入人数：815人 ・7月からの疥癬対応のため、ボランティア受入れや施設内での行事やクラブ活動が出来なかったが、11月に入り疥癬対応も一段落し、活動を再開した。 ・夕映えとの将来連携も定期的に管理職間で会議を行っていたが、組織体制の変更等により、会議の開催が停滞してしまった。(次年度への課題) ・さいはま園と夕映えの郷との交流行事(ここはま会等)は定期的で開催し、双方の利用者に定着してきた。お互いを心配する、声をかける等の場面が増え新たな利用者交流を見出している。また、10月のアールブリュット展(高田)では作品を合同出展した。11月・2月・3月にも合同行事を実施し、互いに交流の場ができた。また2月にはメンバーさんの就労実習の受け入れも行った。週1回のここはま会と、出張販売も継続している。 ・6月にオープンした市立水族博物館うみがたりに外出し、利用者、職員ともに非日常の雰囲気味わった(しおさいの里、デイサービス、介護予防教室の利用者と同行職員総勢約150人が参加)。

<p>③「介護予防」から「中重度の要介護者」まで、幅広いニーズに応え「支援・ケア体制の充実」を図ります（介護予防教室だんだん広場、半日型デイサービス、一日型デイサービス間での人的交流の促進、ショートステイ入所との連携等）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法人独自事業である介護予防教室「だんだん広場」は、地域包括、デイサービス、管理職等が連携協働して行っている。また、利用者の状態変化に応じて、だんだん広場、半日型デイ、一日型デイ間で柔軟にニーズに対応する体制も築かれつつある。 ・デイサービス利用者の増加に伴い送迎車両（8人乗り）を増車した。 ・特養入所部門での利用者の重度化対応や感染症対応の観点から静養室を増やす必要性が高まったこと、ならびにショートステイのニーズが多くあることから、入所定員104床のうち2床（2人居室）を多目的室に転換した（12月より本格運用開始）。これにより、緊急ショートステイ等にもより柔軟に対応できるようになった。
<p>④「認知症介護指導者」の基、認知症ケアに更なる理解を深めるとともに、利用者の自立支援に向けた取組みを推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当法人に在籍する認知症介護指導者を中心に「DCU（認知症ケア向上）プログラム」を立ち上げ、組織間で体系的に取り組みを実践している。これまで計3回施設内研修会を実施し（5/31、7/18、9/19）、施設内での認知症ケア向上に役立てた。 ・同時に、施設外で開催される外部専門研修会にも積極的に参加し、有資格者を増やしてきている。 <p><今年度の外部研修の参加実績></p> <p>◇認知症介護指導者研修：1名修了 ◇認知症介護実践リーダー研修：1名修了 ◇認知症介護実践者研修：3名修了</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/20 外部講師を招き、認知症ケア向上の取組に関する成果報告会を開催した。
<p>⑤高齢・障害制度間の共生型サービスの実現に向け利用者の生活支援の充実を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢（介護保険法）、障害（総合支援法）それぞれのサービスについて理解を深めるため、相談支援従事者初任者研修（障害福祉サービス）に高齢部門（居宅支援、地域包括）の職員を派遣した。 ・10/21には先進地（富山型デイサービス）の視察ならびに地域共生社会に関するフォーラム（富山）に職員6人が参加。その内容を踏まえ、時代や地域ニーズに合ったサービスの検討につなげていきたいと考えている。 ・課長職が中心になり、「我が事丸ごとプロジェクト」として推進することとし、31年度事業計画にも盛り込みながら具体的に始動していく。
<p>⑥業務の効率化を進めることで、職員の負担の軽減に繋げると共に、キャリアパス要件（職員の職位、職責、職務内容等に応じた任用等の要件）等を見直しつつ、先を見据えた人材配置、仕組みを進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4月1日より正職員、臨時職員、パート職員すべてにおいて、一定の基準に基づき定期に昇給する仕組みを設け、その運用を開始した。このことにより、介護報酬（介護職員処遇改善加算）のグレードが向上し、収入が増加した。増加分は制度に基づき、職員に還元した。 ・介護・看護職員の欠員補充を最優先課題とし、ハローワーク、法人ホームページ等での積極的な情報公開に努めている。今後も人員確保に向け、取り組みを強化していきたい。 <p><介護・看護職員の採用と離職状況（30年度）></p> <p>◇介護職員：採用8、離職6 看護職員：採用4、離職5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化の一環として、次年度は記録の電子化に取り組みたい（さいはま園で導入済） ・組織の活性化と人材育成の観点から、10月・11月に人事異動（地域包括、居宅支援、特養、障害、通所介護部門の各相談援助職）を行った。
<p>⑦更なる経費削減に努め、施設設備の修繕等を進め効率的な経営に取組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食材料費の値上がり等もあったが、細かな経費の再見積り等行い、経費削減に努めている。 ・老朽化や業務改善等に伴い更新した設備備品等 <p>◇介護ベッド（270万円、県介護ロボット導入支援補助金60万円含）：整備済</p> <p>◇食器洗浄機（300万円）：整備済</p> <p>◇ナースコール（1,450万円）：整備済</p>
<p>⑧施設の非常災害ならびに防犯に係る対策を継続し進め、利用者及び職員の安全を確保し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・8/28の大雨により頸城区内に避難勧告が出され、上越市からさいはま園に対し福祉避難所開設の依頼あり、対応した。実際に対象者の避難受入れはなかったが、対応手順を施設内で確認することができた。

ます。(非常災害計画の見直し、避難訓練の実施、福祉避難所の運営等)	<ul style="list-style-type: none"> ・9/21 夜間に利用者の離園事故が発生した(施設近くの踏切付近で職員が発見、ケガなし)。その後の事故原因の分析において、初動時の連絡や協力体制が課題となり、改めて対応マニュアルを見直した。 ・11/5 に消防署(4名)、地域防災協力員(16名)が立会いの下、総合防災訓練を実施した。1/29 には夜間想定訓練を実施した。
-----------------------------------	--

1-2) 在宅支援課 期末評価

部門目標	地域包括ケアシステムの深化・推進の観点から、各事業部門における機能強化や役割の見直し、再構築を図ります。
------	--

<重点目標①>

今年度より上越市から新たに受託する「しおさいの里地域包括支援センター(大潟くらし支援室・頸城くらし支援室)」について、使命と責任を持って運営します。

<総括>

- ・4月2日(月)、頸城コミュニティプラザ内での開所式ののち、新体制での業務を開始した。
- ・年度初めより関係機関、団体等への挨拶回りや地域回覧版、市健康診断等でのチラシ配布等、当センターの周知活動を重点的に行った。その結果、頸城地区における住民からの相談件数も増加している。また、虐待等の困難ケースも複数あり、行政や関係機関と協働で対応した。
- ・介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務においても頸城区において担当件数が月ごとに増加している。現在は、他の業務とのバランスを図りつつ居宅介護支援事業所に件数の一部を委託する対応も行っている。

*介護予防支援、介護予防ケアマネジメントの担当件数の推移

<大潟区>	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
直接担当件数	65件	65件	65件	61件	64件	66件	64件	66件	64件
委託件数	49件	49件	49件	51件	51件	51件	59件	62件	62件
合計	114件	114件	114件	112件	115件	117件	123件	128件	126件

1月	2月	3月	合計
60件	61件	62件	773件
59件	59件	59件	662件
119件	120件	121件	1,423件

<頸城区>	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
直接担当件数	28件	40件	42件	35件	44件	44件	48件	51件	49件
委託件数	79件	81件	82件	79件	76件	81件	89件	88件	89件
合計	107件	121件	124件	114件	120件	125件	137件	139件	136件

1月	2月	3月	合計	総計
46件	49件	49件	529件	1,302件
88件	92件	84件	1,026件	1,688件
134件	141件	133件	1,531件	2,954件

・平成20年度より当部門に所属していた看護師が6月をもって退職し、7月より当初計画していた人員体制の下での業務を開始した。現状としては複雑、多岐にわたる業務に対し個々の職員に対する負担の増加は否めず、より一層の組織体制の連携・向上を図りつつ、効率的・効果的な事業運営を目指したいと考える。

・職員の負担軽減の一環として8月、9月の2か月間、パソコン(対象住民1,700人分の基本情報の入力)業務について、人材派遣を利用した。

- ・法人組織の活性化や、さらなる強化を目的に、10/1 付けで職員 1 名の異動を発令した。
- ・地域全体に目を向けて、地域での支え合い活動への支援に力を入れて取り組んだ。

<重点目標②>

主たるサービス提供（対象）エリアの拡大に伴う生活支援体制の再構築を図ります。

<総括>

- ・地域包括支援部門では、頸城区において実態把握訪問や地域サロン、老人クラブ活動に積極的に出向き、地域住民との関わりを通じて地域特性を理解・把握し、正確に地域診断をして地域性を尊重した支援に努めている。
- ・居宅介護支援部門では、今年度より新たに頸城区在住の利用者を担当し、頸城くらし支援室と連携を図りながら居宅介護支援および介護予防支援、介護予防ケアマネジメントを行っている。利用者や、利用者の住む地域のアセスメントも行いながら利用者を取り巻く全体性を理解し把握して、関係機関と支援体制の構築に努めている。
- ・上記頸城区の他、八千浦区（ふもと包括支援センター）からの担当依頼がある等、毎月、受持ち件数が増加している。3月現在の頸城区の利用者件数は34件、ふもと地域包括支援センターからの紹介4件
- ・法人組織の活性化や、さらなる強化を目的に、10/1 付けで職員 1 名の異動を発令した。

*居宅介護支援部門での担当件数の推移

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
114件	124件	123件	120件	120件	127件	136件	151件	153件
1月	2月	3月	合計					
145件	150件	154件	1,617件					

- ・デイサービス部門では、7月より頸城区からのお試しや新規利用の依頼を受けるようになり、今後も受入れについても積極的に進めていきたい。

<重点目標③>

対象エリアの介護保険の状況や、介護予防ならびに重症化予防の重要性を考慮した支援体制の再構築を図ります。

<総括>

- ・デイサービス部門（一日型サービス）では、各利用者の「できること」や現在の機能が「維持できること」に重点を置いたプログラム活動のみ直しを検討し、7月から新たな取り組みを開始した。また、半日型サービスでも、より運動機能の向上に特化したサービスとして、筋力トレーニング機器等を設置する等、活動内容の見直しを図った。
- ・地域の健康講座では、大渦・頸城両区の特徴である高血圧に関連する疾病や認知症等に関する講話を実施し、住民の健康意識を高められるよう努め、健康増進（＝介護予防）、治療中の疾病の重症化予防に取り組んだ。

<重点目標④>

介護予防教室の実践や高齢者の活躍の場の提供、共生型サービスの検討等を通じて、地域の多様で複合的な生活課題の解決に、住民や福祉関係者と連携して取り組みます。

<総括>

- ・30年4月の制度改正において居宅介護支援事業所の介護支援専門員と特定相談支援事業所の相談支援専門員との連携（介護保険と障害福祉サービスの連携）が明記され、利用者の生活の連続性を途切れさせずに、サービスの継続性に配慮しながら制度移行を進めていく重要性が示された。制度の垣根を超えた連携を図るためには制度の内側からの理解も必要と考え、相談支援従事者初任者研修に職員2名（居宅介護支援1、地域包括支援1）が参加して学ぶ機会とした。研修修了後は事業所内で伝達研修を行う予定で今回の学びを職員間で共有して、有効な連携・協働が図れるように取り組んでいくことにしている。
- ・頸城地区公民館明治分館協議会が今年度から地域住民を対象とした介護予防事業を立ち上げるにあたり、地域包括支援部門に運営に関する協力依頼があり、当部門とデイサービス部門の職員が脳トレ、健康体操の指導者として協力することとした（8月より開始）。
- ・地域包括（頸城支援室）では、当地域の水害に関する地域連携対応の一環として、9/30に行われた頸城区南川地区の防災訓練に参加した。

- ・法人として地域共生社会に対する理解を深めること、ならびに当デイサービスセンターの機能強化の一環として、高齢介護課・障害支援課職員とともに先進地視察（富山型デイサービス）および共生地域福祉フォーラム（10/21 富山市）への参加を行った。
- ・地域包括支援部門では、高齢者の総合相談窓口として身近な相談相手であることを健康講座や実態把握訪問の際にチラシを配布して広報に努め、徐々に浸透してきているが、まだまだ周知不足は否めない。しかし、身近な相談窓口というところでは、障害分野の相談を受ける機会もあり、行政と連携・協働して適切な支援につなげた。

1-2-1) 地域包括支援センター

部門目標	地域包括ケアシステムの構築に向け、積極的に地域に出向き、地域の医療・福祉の関係者や住民組織等との関係構築を図ります。
<重点目標①>	
職員一人一人がそれぞれの専門性を発揮し、職員相互の連携により一体的な運営ができるように業務方法の統一化を図ります。	
<総括>	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括運営会議を月1回以上実施し、大潟くらし支援室（拠点）と頸城くらし支援室（サテライト）間との情報共有や、職員同士で業務内容や体制の疑問点を話し合い、業務の改善に努めた。そして業務の進捗状況を確認するとともに業務に関する悩みや意見等を話しながら、職員間で共通認識を図り、上司とも意思疎通を図った。 ・保健師等（看護師）は大潟くらし支援室の配置になっているが、頸城区の医療に関する講座や相談、支援困難事例にも介入し、大潟区・頸城区での医療ニーズへの対応、医療機関とのつながり、橋渡し役として努めた。 ・大潟区・頸城区に分かれて職員配置をしているが、ケースによっては担当区以外の職員も支援に協力したり、地域での健康講座等にも職員を派遣するなど協力し合いながら業務にあたることできた。 ・虐待対応事例では、行政と支援者、地域包括3職種が協働で介入し、利用者の安心・安全の視点、権利擁護の視点、家族支援への視点、支援者への視点などを抑えて、役割分担をしてチームアプローチを実践し、解決に向けて取り組んだ。 	
<重点目標②>	
地域ケア会議は地域の課題を明らかにしたうえで、地域の主体性に基づき、関係者と課題解決策の検討や必要な地域資源の開発を目指します。	
<総括>	
<ul style="list-style-type: none"> ・頸城区では「みんなが暮らしやすい地域づくりを考えよう～地域（町内）で支え合うために、今私たちにできることは何か～」をテーマにした第1回地域ケア会議を開催した（11/27）。 ・第1回地域ケア会議で抽出された課題等については、第2回会議へ引き継ぎつつ、「地域での孤立を防ぐ」ことをテーマに開催して議論を深め、地域でお互いに支え合うことの大切さを改めて学び、他人事を自分事に置き換える意識を高められるよう共通認識を図った。 ・第3回地域ケア会議は「地域の精神疾患のある方への支援」をテーマにさいがた医療センター、夕映えの郷職員、地域の介護支援専門員が参加し、さいがた医療センターの現状や機能を理解したり、医療と介護の連携方法について意見交換を行った。アンケートにも「連携が取りやすくなった」など意見が多く、実施の成果があった。 ・大潟区では地域住民を参集した地域ケア会議を開催できなかったことから次年度は地域住民を参集した地域ケア会議を開催したい。 	
<重点目標③>	
介護支援専門員のニーズを把握し、多職種連携や介護の重症化予防に向けた研修会、自立支援に資するケアプラン作成のための検討会を開催します。	
<総括>	
大潟区および頸城区の介護支援専門員への支援として、認知症ケアの一層のスキルアップを図るため認知症の人へ	

のケアマネジメント手法を学ぶ研修会を企画していたが、予定した講師との調整が進まず見送った。

- ・市主催の個別地域ケア会議は医師等に参加を呼びかけ、多職種による事例検討が行えている。年6回のうち大潟区で3回、頸城区で3回を奇数月に開催し、要支援者の重症化予防の視点を深められた。
- ・8月にしおさいの里居宅介護支援事業所より「介護予防ケアマネジメント」に関する研修会の講師依頼があり、担当した。
- ・頸城区では個別に居宅介護支援事業所からの依頼を受けて、事業所全体のスキルアップと頸城くらし支援室との業務連携を強化する一環として個別に指導・助言を行った。
- ・地域包括主催の研修会は開催することができなかったが、事業所から研修会講師依頼を受けたり、意見交換会に出席する等して事業所の質を高められるよう意識を持ち、地域全体の支援力の向上に取り組んだ。
- ・今年度より居宅介護支援事業所では同一法人外の事業所との合同研修会を実施するにあたり、事業所間の橋渡し役を担い、研修計画案の助言を行った。
- ・市主催の大潟区個別地域ケア会議では医師に出席依頼をした。杉田医師から出席をいただき、事例検討では医療的な側面からの助言を得て、介護支援専門員のスキルアップを図った。

1-2-2) 居宅介護支援事業所

部門目標	利用者が可能な限り居宅において、自立した生活が送れるよう関係機関等との連携を図り、広範なニーズへの対応が可能な質の高いケアマネジメントの実践を目指す。
総括	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに合わせて小規模多機能型居宅介護事業所と連携してサービスを移行したケースが3件あり、その結果、在宅生活の継続が支援できている。 ・医療機関、地域包括支援センター、障害福祉分野との幅広い連携ができ、在宅生活の支援を行っている。 ・MCネットの活用による他職種の連携が行えている。 ・末期ガン患者について自宅での生活希望に添って医療サービスと連携しながら在宅生活の支援を行っている。
<重点目標①>	
利用者の生活の現状や暮らす地域を総合的にアセスメントし、専門的な見解を誠実に伝え、そのうえで利用者（家族）の自己決定を尊重しながら、その人らしい生活のありようを利用者（家族）と一緒に考えていく課題解決アプローチを実践する。	
<総括>	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族の置かれている状況の理解に努め、課題について具体的に解決するに至らないケースもあるが、利用者の自己決定を基本姿勢に利用者（家族）と一緒に考えるプロセスは実践できている。 ・介護保険サービスだけでなく、インフォーマルなサービスについても説明や紹介を行い、家族に提案している。 	
<重点目標②>	
平時から地域包括支援センターや介護事業者、医療機関等と連絡を取り合い、生活状況や課題、ニーズ等の情報共有に努め、連携と協働による高度なアプローチを目指す。	
<総括>	
<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者の支援や障害を抱える夫婦の支援にあたり、地域包括支援センターの職員と情報共有を図りながら協働で支援した結果、それぞれの利用者の精神的な安心感が図られ、支援が好転してきている。 ・障害福祉サービスとの併用により、相談支援専門員や行政等と連携し、在宅生活の継続が支援できている。 ・65歳以上の障害福祉サービス利用者の介護保険への移行が始まり、スムーズな移行ができるように夕映えの郷・相談支援専門員を講師に「相談支援専門員と介護支援専門員の連携を目指す」研修会を企画し、お互いに理解を深めることで分野横断の連携・協力につなげた。 ・個別地域ケア会議に参加し、積極的に事例提供やファシリテーターを行った。また地域ケア会議への参加を通じて、地域の民生委員や他の介護サービス事業所の職員と地域の課題やニーズ等について話ができるような関係作りに努めた。 	
<重点目標③>	
個別研修計画を各自が実施し達成状況を高めるとともに、「利用者に関する情報又はサービス提供に当たっての留意事項に係	

る伝達等を目的とした会議」をより充実させ、事業所全体の質の向上を図る。

<総括>

- ・個別支援計画に基づき、職員が均等に計画的に外部研修に参加して研鑽に努めている。また日常の中で自身の実践に対する迷いや不安、妥当性等については職員間で相談したり、助言を得たり、意見を求めたりして、振り返るように努めており、実践力を高める取り組みにつながっている。
- ・8月に事業所独自で「介護予防ケアマネジメント」に関する研修会を企画した（講師として地域包括支援センター大潟くらし支援室の主任介護支援専門員に依頼）。研修会には地域の居宅介護支援事業所の職員にも参加を呼びかけ、介護予防ケアマネジメントについて共に学び理解を深めた。
- ・個別研修計画に基づき、職員個々が目標を明確化して研修会に参加し、研修後は事業所内で伝達研修を実施し事業所全体で質の向上に取り組んだ。

1-2-3) デイサービスセンター

部門目標	地域で暮らす高齢者の皆様が行ってみたいと思っただけのデイサービスを目指します。
総括	大潟区の介護予防教室「だんだん広場」や認知症カフェ「うみまち茶屋」、頸城地区公民館分館元気事業への協力、うみまちフリーマーケットの開催等で「ゆりかご荘」を知っていただく機会があったが、まだアピールが足りないように思う。 地域の皆さんに「ゆりかご荘」を知っていただくために、地域の行事や会議等への参加や各居宅介護支援事業所への営業活動を今後も重点的に行っていく。また、業務の効率化に向けた見直しやご利用者様のニーズの把握等も継続して行っていき、個別の対応に応えられるサービスの提供に努めていく。

<重点目標①>

お試し利用を積極的に受入れ、ご利用者様が利用してみたいと思えるような暖かいサービスの提供に努めます。

<総括>

*お試し利用の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日型	1名	1名	2名	1名	2名	2名	2名	10名	3名	4名	4名	2名	34名
半日型	2名	1名	—	—	—	—	1名	5名	1名	1名	—	1名	12名
新規契約数	3名	2名	1名	1名	2名	2名	3名	13名	4名	5名	3名	3名	42名

・お試し利用の依頼には迅速に対応し、声かけを多くしたり、他者との会話の仲介に入ったりと気にかけて対応するように心がけ、その後の利用につながることができた（上半期の新規契約者数11名）。11月以降、頸城区の方中心に新規契約が多かった。

<重点目標②>

ご利用者様、ご家族様の意向を確認し、個々に合わせた支援を行います。

<総括>

・1日型、半日型共に個々のできることに重点を置き、7月からプログラムを変更している。またご利用者様、ご家族様の依頼や要望にはできる限り対応している。

<重点目標③>

サービス提供エリアの拡大に伴い、頸城方面からも利用受入れができる支援体制の構築を目指します。

<総括>

- ・8月から月に1回行っている頸城明治地区のサロンに参加する。
- ・7月後半より頸城区からの新規依頼があり、11月以降は毎月新規・お試しの方々を受け入れることができた。ご利用者様増員に伴い、早急に管理者と相談し送迎車を増やし対応することもできている。
- ・頸城区のご利用者様の担当ケアマネージャーとも密に連絡・相談し、送迎やサービス提供時間などの調整を行った。

<重点目標④>

新規依頼には迅速に対応し早期利用につなげ、通所介護及び総合事業の現行相当サービス（みなし）の毎月の利用延べ人数624人を目指します。（毎日の利用者数24名以上）

<総括>

*延べ利用人数の状況、（ ）は一日平均

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
545人 (21.8人)	570人 (21.1人)	552人 (21.2人)	542人 (20.8人)	551人 (20.4人)	556人 (22.2人)	605人 (23.2人)	624人 (24.0人)

12月	1月	2月	3月	合計
631人 (24.2人)	614人 (23.6人)	554人 (23.0人)	635人 (24.4人)	6,979人 (22.4人)

- ・今年度逝去11名、特養・老健等入所10名。8月～9月は疥癬発生の影響により利用自粛やキャンセルがあった。
- ・新規獲得のために各居宅介護支援事業所への営業活動、まちトレ上越様の見学や富山型デイサービスの見学を行った。また、地域包括支援センターからの情報提供や居宅介護支援事業所からのアドバイスを参考にして目標達成の努力を行い、下半期は目標を達成できた月があった。

<重点目標⑤>

半日型デイサービス（主に総合事業の通所型サービスAの対象者）の毎月の利用延べ人数130人を目指します。（毎日の利用者数5名以上）

<総括>

*延べ利用人数の状況、（ ）は一日平均

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
101人 (4.1人)	105人 (3.9人)	107人 (4.1人)	108人 (4.2人)	97人 (3.6人)	102人 (4.1人)	116人 (4.4人)	128人 (4.9人)	120人 (4.6人)

1月	2月	3月	合計
131人 (5.0人)	128人 (4.9人)	134人 (5.1人)	1,377人 (4.4人)

- ・今年度半日から1日型へ移行された方5名、逝去2名。11月は新規契約が多かった。下半期は目標を達成する月があった。今後も1日型同様に新規獲得のために積極的な情報発信（空き情報等）や各居宅介護支援事業所への営業活動、介護予防教室「だんだん広場」や認知症カフェ「うみまち茶屋」、頸城地区公民館分館元気事業等への協力を行っていく。

<重点目標⑥>

介護予防教室「だんだん広場」や認知症カフェ「うみまち茶屋」との人的交流の強化を図り、一人ひとりのニーズの変化にも柔軟に対応できる支援体制を目指します。

<総括>

- ・だんだん広場やうみまち茶屋への協力を通じて、参加者と顔なじみの関係が構築できた。
- ・だんだん広場からデイサービス（ゆりかご荘）に移行希望もあった。曜日の希望等もあり、調整に時間がかかってしまったが受け入れることができた。

<重点目標⑦>

在宅支援課各部門や関係機関と連携を図り、高齢者の活躍の場の提供や共生型サービスの検討を通じてデイサービスができることに取り組みます。

<総括>

- ・高齢者の活躍の場の提供では、デイサービスのご利用者様が作った作品をうみまちフリーマーケットで販売した。
- ・共生型サービスの検討については、10/21に先進地（富山型デイサービス）の視察ならびに地域共生社会に関するフォーラム（富山）に複数職員で参加した。その内容を踏まえ、時代や地域のニーズに合ったサービスを具体的に検討していきたい。

1-3) 高齢介護課（特別養護老人ホームしおさいの里）

部門目標	利用者、職員共に笑顔で、安心して楽しみのある生活が送れるよう心や思いに寄り添い、やりがいを持ち、適切なサービス提供の実現を目指します。	
重点目標	<p>(数値目標：稼働率 97.5%/年)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 利用者の基本的人権を尊重し、安心・安全な生活が継続でき、その人らしく笑顔で生活できることを大切にしながら支援します。 ② 認知症ケア担当が中心となり、一人ひとりが自分らしく安心した生活が送れるような支援を目指します。認知症研修等の参加にも努めます。 ③ 専門職としての自覚を持ち、個々の役割と責任を認識しながら、職員間のコミュニケーションを大切にし、風通しの良い、働きやすい職場環境を目指します。 ④ 地域に暮らす高齢者の活動の場としてボランティア活動の受け入れを継続します。ボランティアコーディネーターと連携しながら利用者が楽しみややりがいを持てる活動の輪を広げ、社会との結びつきの更なる充実を目指して行きます。 ⑤ クラブ活動や外出、お料理活動を通しながら、利用者の可能性を引出す取り組みを継続します。 ⑥ 一人ひとりが自身の資質向上のため、積極的な研修参加や自己研鑽に努めます。 	
評価	<p style="text-align: center;">現 状</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 利用者の立場に立って安心・安全な生活が送れるように努めている。 7月に疥癬が発症し、利用者の行き来が制限され、職員も受診や感染対応に追われ、いつも以上に自由に過ごすことができなかった。 利用者の表情も無表情であったり認知症の症状が進行したようにも思われた。感染予防のため全体的なクラブ活動も中止した。 敬老会は各丁目にて行い、利用者も笑顔で楽しめた様子があり良かった。 疥癬終息後は利用者の往来も制限無く自由に過ごされている。 ② 認知症ケア担当が中心となり支援はおこなっている。 研修参加も担当が発信はしているも、参加人数は少ない。ひもときシートも実施できた。 課題が生じた時、認知層ケア担当がスーパーバイザーとなるような機会が作れなかった。 ③ 働きやすい環境作りは意識しているが、部署により雰囲気等違いはある。家族への受診結果の報告や、受診が多く職員間での情報共有が出来ていなかった。 早出出勤や残業に関しては各ユニット体制上差が 	<p style="text-align: center;">今 後</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 笑顔を引き出せるようまた、今後も安心安全な生活を送れるよう支援していく。 疥癬が終息後は（10月頃を目安に）クラブ活動を再開し、その人らしく過ごせるよう対応する。 冬期間は外出の機会は減ってしまうが、各ユニット行事やクラブ活動を通して企画を考えていく。 流行性の感染症などが発生しないように標準予防策を徹底する。 ② 認知症をもう少し理解し、問題行動と捉えず解決策を見出していく。認知症研修への参加を促していく。 研修会の時間帯や、研修に興味が無い、勉強しようとする意欲が無いようであれば、どのように発信すれば良いか検討する。 ③ 専門職としての役割、責任を再認識し、職員間でアドバイス（意見を言い合える）し合える関係作りをコミュニケーションを通して築いていく。 どのようにしたら意識できるか考え発信していく。 研修への参加を勧め「参加して良かった、参考になっ

	<p>ある。</p> <p>専門職としての自覚と責任を持ち、職員間のコミュニケーションを大切に連携を図る。</p> <p>各丁目への協力体制が整わず不穏な雰囲気も感じられた。</p> <p>④ 疥癬の発生があり、感染予防のためボランティアの方や外部の方との触れ合いの活動も中止となった。ボランティアの申し込み受け付けは継続している。1件申込みあり。</p> <p>疥癬終息後は各丁目にて各月でボランティアの受け入れを実施できている。殆どの利用者が参加でき楽しんでいただいている。</p> <p>地域のボランティアの方々との交流や外部との結びつきにてやりがい等も生まれている。</p> <p>⑤ 7月は外出できたが、その後疥癬発生にてクラブ活動や外出は中止した。</p> <p>疥癬終息後は活動再開し、利用者の自信ややりがい、満足を得ることができている。</p> <p>職員だけでは知り得ない利用者の違った一面も引き出せている。</p> <p>職員と一緒に参加することができていない現状もあり他職種に協力を依頼している。</p> <p>⑥ 積極的な研修参加は少ない。疥癬対応等で疲労も重なり参加率は少なかった。</p>	<p>た。」と思ってもらう機会を作るよう努めていく。</p> <p>「認知症基礎研修」「認知症実践者研修」への参加も働きかけていく。</p> <p>DCU会議の内容を高齡介護課会議にて伝達し、主任から各職員へ発信し積極的に参加できるよう取り組む。</p> <p>④ 疥癬終息後はボランティアや各丁目利用者との交流も再開し楽しみのある生活を取り戻していく。</p> <p>あっとホーム等でボランティアの募集を行っていく。ねぎらいの言葉や感謝の気持ちを伝え継続していただけるよう努める。</p> <p>⑤ 疥癬終息後からは再開する。</p> <p>利用者の更なる喜びや自信となるよう職員も参加できる時には参加するようにしていく。</p> <p>お料理活動ができていない。各ユニットで開催出来るよう協力していく。</p> <p>⑥ 研修内容や参加しやすい時間帯や雰囲気等工夫が必要であるため話し合っていく。</p> <p>自主参加を働きかけるだけでなく、職員の能力に合わせて上司が参加の予定を立てることも必要である。</p> <p>目標が6つもあることで意識しながら取り組むことは大切だが、ストレスを溜めないよう考えていく必要がある。</p>
--	--	--

1-3-1) しおさいの里・2丁目

部門目標	利用者が心身ともに健康で充実した生活を送ることができるよう、職員が協力し合い、真摯に支援していきます。	
重点目標	現状	今後
<p>① 日々の生活支援の中で、感染症の予防・安全への配慮を行いながら、年間、月間の行事や季節を感じていただけるような雰囲気を作り、楽しんでもらえるよう努めます。利用者の個々のニーズにはできる限り応えていきます。</p>	<p>・8/14から「疥癬疑い」と診断された利用者が出たため丁目内対応他、2・3・5丁目としての対応も求められた。疥癬対応が初めての職員も居たため、危機意識に差が出ることもあり、対応が不十分になってしまうこともあった。9/12に解除となりその後の発症者はいない。</p> <p>・9/21に離園事故が発生した。発生の経緯としては、他利用者のご家族が宿泊しており、エレベーターの電源が普段より遅くまで入っていたが、それに関する周知が遅番勤務者に出来ていなかった等、普段とは違う状況だったことが挙げられたが、発生した時の初動（協力体制・連絡体制）についても重要な要因として挙げられた。</p> <p>・2丁目の装飾はレクリエーション係が中心となり</p>	<p>・今回の経験が今後活かせるよう、感染症対策委員会が中心となり、マニュアルの見直しや疥癬対応のために作成した書類等をまとめたり、個々に振り返りを行ったりしていく必要がある。</p> <p>・2丁目会議内で状況の確認・要因・対策の検討を実施。事故防止委員会からは離園時の対応チャートが示された。職員全員が対応できるよう周知を図る。</p> <p>・装飾は良い評価を得ているため継続す</p>

		<p>時季を見ながら行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疥癬の影響から、クラブ活動や外出の実施が中止となり、利用者の楽しみが減ってしまった。 ・利用者個々の支援は担当職員が中心となり、できる限り応える様努めている。 ・レクリエーションや全体的な外出は中止となったが、担当職員が利用者と個々に外出する機会は設けることが出来た。 ・11月6日に疥癬の終息宣言が出されたが、2丁目から11月26日に再発があった。早急に隔離対応に移行し、他利用者への感染拡大防止に努めた。 ・12月10日に治療終了し、他利用者への感染は確認されなかった。入浴対応等で利用者には迷惑をかけてしまったことは大きな反省点である。 ・10月～12月期の中では利用者に関する事故の他物品破損（利用者個人物）が目立った。日々の業務の中で事故検討会の開催が難しく、要因・対策を打ち出すのに時間を要してしまった。 ・2丁目の装飾はレクリエーション係が中心になって時季を見ながら行っている。 ・疥癬の影響はありながらもが外出や施設内行事、クラブ活動、ユニット内行事も行うことができ、利用者には楽しんでもらえた。 ・利用者個別支援は担当職員が中心となり、できる限り応えられるよう努めている。 	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疥癬の状況は徐々に終息してきているため、クラブ活動や外出等再開したら積極的に参加を勧めて行く。 ・個々の支援は今後も継続して行く。 ・今後疥癬の再発等があれば的確な対応が行えるのではないかと。時間が経過すると記憶も風化してしまうため、感染委員会を中心に研修を開催したり、個々での振り返りを行う必要はある。 ・事故検討が遅れている場合はモニタリング会議の場で話し合った。今後は事故の当事者・発見者を中心に当日出勤者も関わり検討するようにし、報告書の作成も速やかに実施する。 ・2丁目の装飾は良い評価を得ているため継続していく。 ・冬期間は、施設・個人の外出機会が少なくなってしまうため、各月行事やクラブ活動を通して楽しんでもらえるよう企画していく。
②	<p>言葉の表現、トーン、対応の仕方等、不適切ケアに繋がらないよう職員全員で努めます。また職員間のコミュニケーションを活性化し、情報共有・相談・検討を重ね、ケアの質を向上させていくと共に、連携を強化していけるよう努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・7月から9月の間で不適切なケアは無かった。人権意識向上委員会・ケア向上委員会からの取り組み・評価を継続し、意識して援助に当たってもらうよう努めている。 ・9月の会議にて「働きやすい職場作りと日々のケアの低下傾向を改善する」ことを目的とした話し合いの場を設け、内容を記した文書を全員に配布した。 ・不適切なケアは無かった。人権意識向上委員会・ケア向上委員会からの取り組み・評価は継続しており、意識して援助に当たってもらうよう呼びかけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き不適切ケアが発生しないよう、日々の取り組みの評価と共に、自身の援助方法を振り返る。 ・9月に配布した文書を使って定期的に評価を行い、利用者の対応や業務が身に付いているか確認する機会を設ける。 ・引き続き不適切ケアが発生しないよう、日々の取り組み評価と共に、自身の援助方法を振り返る。また評価を行う中で、利用者の対応・業務に関する個々の達成度に差が生じていることが目に見えてきた。会議の場ですり合わせを行う機会が必要である。

1-3-2) しおさいの里・3丁目

部門目標		利用者が安心・安全な生活を送れるよう援助し、職員にとっても働きやすい環境作りに努めます。	
重点目標		現状	今後
①	利用者が充実した生活を送れるよう、又事故防止に努め安心・安全なサービスを提供します。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりに合わせた支援を行っているが、疥癬対応にて、不十分な部分が見られた。 ・事故等なく現状経過している。 ・利用者に合わせてケアを行い、事故無く安心して生活できる様心がけている。 ・目標通り実施できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりに合わせた支援を、急がず確実に実行していく。 ・ゆとりを持って対応し、目標に掲げた通りの取り組みを実施して行く。
②	職員のコミュニケーションを大切にし、お互いに思いやりを持って、相談しやすく働きやすい環境作りを目指し、より良いサービス提供を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員と主任とのコミュニケーションが不足していた。副任には大きな負担となっていた部分があったと思われる。 ・主・副任にて現状の課題について相談し、良い職場環境になるよう働きかけを行った。他職員とも話をしながら可能な限りの対応を行ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主任が状況をしっかりと把握し職員にきちんと声をかけるよう心がける。 ・主・副任がしっかりと協力し働きやすい環境作りを行なっていく。 ・都度課題に対して対応できるような話しやすい職場環境を目指していく。

1-3-3) しおさいの里・6丁目

部門目標		利用者、職員共に笑顔で安心して楽しみのある生活を送れるよう、心や思いに寄り添い支援します。	
重点目標		現状	今後
①	利用者がその人らしく笑顔で生活できるよう、利用者の楽しみややりがいをもっと探れるよう日々の支援の中で探っていき、サービスを提供します。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者がその人らしく過ごせるよう、毎日工夫や職員間で相談等できている。 ・時間に余裕があった際、カラオケやレクリエーションが出来て良かったと思う。 ・敬老会は部署内で趣向を凝らした催し物を開催し楽しんでいただいた。 ・疥癬が発生し余暇活動が減ってしまった。疥癬対応で時間が限られ日々のコミュニケーションがあまり取れず、ゆっくりと話を聞いたり寄り添うことが不足してしまった。 ・日々の様子は記録に残している。外出参加やユニット内の行事に参加することで楽しんでもらった。 ・行事等で写真を撮影するが、配布しアルバムに入れるだけで終わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員欠員状態であるが、職員間の声掛けを忘れず支援に当たるよう意識する。 ・時間を見つけ余暇活動を働きかけ、笑顔を増やしていく。 ・利用者の楽しみややりがいをもっと探れるようコミュニケーションを図っていく。 ・コミュニケーションの中から本人の希望を探り、外出等に繋げていく。 ・アルバムを通じて振り返ったりコミュニケーションを図っていく。 ・夕方の空いている時間でレク活動や利用者の身の回りの整理整頓等を働きかけていく。
②	職員間のコミュニケーションを大切にし、業務体制を工夫しながら職員が心にゆとりを持てる働きやすい職場環境を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の業務がきつく心にゆとりが持てなかった。(職員欠員・疥癬対応のため) ・研修に参加し、自身に足りない事や必要なスキルを発見できた。 ・職員欠員状況の中、声掛け合いながら業務を進めることができた。その中でも心にゆとりを持てる時と持てない時があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心にゆとりが持てる様、業務体制を工夫し、職員同士声掛け合いながら支援していく。 ・研修会で学んだことを会議等で伝え、活かしていく。 ・業務体制を工夫しながら心にゆとりを持てるような環境を働きかけていく。 ・職員間のコミュニケーションを大切にしている。

1-3-4) しおさいの里・7丁目

部門目標		利用者一人ひとりが安心し、充実した生活が送れるよう支援します。	
重点目標	現 状	今 後	
① 職員間の連携を密にし、不適切なケア、介護事故を起こさない、起こらないよう努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同志声掛け合い、連携を取り合いながら事故防止に努めている。 ・職員間の連携は取れている。 ・絡帳の活用や会話を通して情報共有できている。 ・同様の事故が挙がったが対策に沿って対応しその後の事故防止に努めた。 ・不適切ケアを起こさないよう全員で努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識、技術を一人ひとりが意識して介助に当たり、事故を起こさない様にする。 ・注意では無くアドバイスとしての目線で伝え、良好な関係性を築いていく。 ・不適切ケアや介護事故を起こさないよう、職員がゆとりを持てるよう働きかけていく。 	
② 常に業務の効率を考え、職員の負担軽減に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・都度職員間で話し合いながら業務を行っている。 ・介助に時間を要し、業務がスムーズに行かない時もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態に合わせ、職員間で話し合い、負担軽減ができるように努めて行く。 ・勤務によって業務内容が決まっている所があるため、決めずに声をかけ合いながら協力し合って行く事で、より負担軽減できると思われる。 	

1-3-5) しおさいの里・5丁目

部門目標		何度も利用していただけるよう心のこもったサービス提供に努めます。(数値目標：稼働率 94%/年)	
重点目標	現 状	今 後	
① 利用者やご家族の意向を汲み取り、人権を尊重し、気持ちに寄り添った対応を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・家人面会時、普段の様子は伝えている。 ・送迎時等家人の話に耳を傾け意向に添える様心がけたが、退所時の荷物確認等で意向に添えていない事があった。 ・利用者に関わる時間を意識して持つように心がけているが、時間に余裕がある際には多く関わる事ができている。 ・言葉使いでは「ちょっと待って」や馴れ馴れしい言葉使いが聞かれることがあった。 ・退所時に荷物忘れ等不手際な事があった。 ・疥癬対応や職員の研修、体調不良で欠員状況となり、利用者に関わる時間が少ない時があった。時間に余裕がある時は多く関わるように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き家人面会時には普段の様子を伝え、家人との関係を密にしていく。 ・家人の意向は遵守するよう努める。 ・少しでも時間を見つけ、利用者に関わることを心がけ、気持ちに寄り添った対応を行って行く。 ・丁寧な言葉使いを心がけ、態度にも気を付けていく。 ・家人との関係を密にしていく。 ・退所時の荷物忘れが無いよう確認を徹底する。 	
② 職員間の連携、コミュニケーションを大切にし、情報の共有を図り適切なサービス提供に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の挨拶はできている。 ・相手を思った言葉かけをするが受け取り側から素直に受け取ってもらえず困惑することがあった。 ・他職員に行って欲しいことは具体的にお願いし、対応してもらった後は感謝の言葉を言う様にしている。 ・疑問に思ったことは他職員に相談し、一人で抱 	<ul style="list-style-type: none"> ・指摘を受けた際は素直に受け止め反省に活かしていく。 ・相手を思いやった言葉使いをし、感謝の言葉をかけることは継続して行く。 ・今後も疑問や困ったことがあった際は職員間で情報を共有し、相談・検討を行い、サービスの向上に努めていく。 ・連絡帳の活用も継続して行く。 	

		<p>え込まない様になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡事項は些細な事でも連絡帳に記入し、情報の共有に努める。 ・連絡事項は連絡帳に記載したが見落としがあり、うまく伝わらないことがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳の見落としが無いよう出勤時は必ず連絡帳に目を通すよう徹底する。確実に伝えたいことは口頭や個別でメモを付ける等確実に伝わる方法で残す。
③	<p>施設内研修や部署内において認知症ケアの学びの機会を持ち、パーソンセンタードケアの理解を深め、利用者が安心した生活が送れるような支援を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・8月のモニタリング会議にて1名の利用者の言動について、認知症ケア担当者中心にパーソンセンタードケアに沿った対応について話し合いを行った。 ・認知症ケア担当者が自身の認知症実践リーダー研修の自施設実習で、実習協力者が取り組んだ内容について部署内職員に説明を行い、対象利用者の支援方法について職員全員が同じ目線で対応する事が理解できるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もその人らしさの理解に努め、前向きな働きかけを行って行く。 ・モニタリング会議で認知症介護実践者等養成事業のカリキュラムの中から抜粋し、ミニ研修を行って行く。 ・その人らしさの理解に努め、前向きな働きかけを継続して行く。
④	<p>楽しみややりがいを持つ活動や利用者の活動を引出せるような余暇活動の充実に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・脳リハについては疥癬発症にて午前風呂の実施となり思う様にできていない。 ・ボールを使用したり、千本引きや今まで行わなかったレクリエーションにも取り組んだ。担当者以外の職員も協力し雰囲気盛り上げに努めた。 ・間違い探しやスリーヒントゲーム等の新しいレクリエーションの作成やカラオケ、ボール使用の物等普段あまり行わなかったことも行うことができた。 ・ゆりかご荘のレク見学には行く事ができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・疥癬終息後、脳リハに力を入れ、利用者の可能性を引き出せるよう努めていく。 ・引き続きレクリエーションの場を盛り上げ楽しんでもらい、更に利用者の可能性の引出しに努めて行く。 ・レクリエーションの内容の充実に努めていく。 ・ゆりかご荘の見学に行き、レク内容や利用者との関わり方や盛り上げ方等を学び、活かしていく。
⑤	<p>特養の空きベッドも活用し、利用率アップに繋げ、毎月の利用延べ人数340人を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・7月から特養入所部門で疥癬発症があり、空きベッドの利用ができなかった。新規利用者にも施設の現状を伝え、ご理解頂いてからの利用であった。積極的な営業活動は行えなかった。 ・7～9月は延べ人数月平均316.3人の利用であり、7月については亡くなられる等キャンセルが続き、目標値は達成できなかった。 ・10月に疥癬終息したが11月に再発症があり、営業活動の実施ができなかった。 ・10月～12月の延べ人数月平均332.6人の利用であり、10月については老健入所や入院等キャンセルが続き目標値は達成できなかった。 ・11月、12月は越冬での利用や特養入所待ちの緊急シユートの受入れを行い、空きベッドの利用も行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・疥癬終息後は営業に回り、新規利用者の獲得を目指して行く。 ・緊急シユートの依頼があった場合は特養の空きベッド利用にて受け入れられるよう調整する。 ・営業に回り新規利用者の獲得を目指していく。(地元や近隣の包括や居宅事業所) ・感染症の発生状況を確認しながら7丁目の多目的室を有効活用する。

1-3-6) 看護

部門目標		利用者が安心して過ごせるよう健康面から支えて行きます。	
重点目標	現状	今 後	
① 終の棲家の施設としての役割が果たせるように、他職種と連携し取り組みます。	<p>7月看取り1名 8月看取り1名 急な体調変化で救急搬送2名 9月なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他職種と連携し、家族の気持ちを汲み取り最期を迎えられるよう取り組めた。 ・看取りの利用者 10月：なし（医療機関1名） 11月：なし（医療機関1名） 12月：なし ・3ヶ月間施設内看取りなし。急な体調不良にて受診後入院にて亡くなったケース2件。受診前に家族の意向確認あり、病院搬送行った。 ・12月には急な呼吸停止でAED使用にて回復し、救急搬送1件。家族の意向確認はその場で説明行い意向の基、搬送した。 ・意向確認されている人数 102名中55名（約54%） ・意向確認表と共に、その場にて意向確認行い対応できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意向確認票の見直しを進める。 ・他職種と協力して、家族の気持ちに沿って対応の継続を実施。 	
② 薬の管理・医療行為ケアでの事故が無いよう取り組んで行きます。	<p>7月事故1件（経管栄養漏れ） 8月事故2件（便処置ミス）、（薬用量ミス） 9月事故1件（薬セットミス）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思い込みからの確認不足から起きた事故2件あり。基本の確認を怠らない様話合った。 ・薬の事故：11月2件。 11月採用職員関係1件。 薬の内服方法変更後1件。 ・医療機器点検：年3回（4・8・12月実施） ・吸引器：7台交換予定。 30年度予算にて伺いあり。 故障の3台については交換済。 医療器点検を実子して、医療ケアが安全に行える様環境を整えた。 ・10月～12月事故、ひやり件数が多かった。日々の業務を振り返り再発防止に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も声の掛け合いや文書での周知を皆で行い事故予防に努めていく。 	
③ 傷の処置、体調管理をスタッフ間で連携して安全に行えるよう努めて行きます。	<ul style="list-style-type: none"> ・傷処置の多い2名の方、8月に亡くなりました。 ・剥離処置ステリ処置者入浴時対応は難しかったが、テープ上に印を付けたことで現場でも周知し、入浴対応がスムーズに行える様になった。 *ステリ：皮膚結合テープ ・傷処置パット：12月より新しいタイプの傷処置パット使用開始。 ・毎日の申し送り時に、体調、皮膚状態、排便状況含め情報共有し業務に当たった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい傷パットのサイズを決定し、活用に取り組む。 ・新しい傷処置パットの使用評価を3月に医務室にて実施。 	

		・12月よりリーダー業務時間を8:30～の勤務に変更した。 体調管理に取り組める体制に整えた。	
④	職員の外部研修をすすめて行きます。	施設内 ケア1名 ・施設外研修参加者より、看取りケア研修の情報提供を受ける事ができて良かった。	外部：上越市内の研修があれば勧めていく。 内部：声掛け参加促していく。 ・冬季のため研修参加は状況みて進めていく。

1-3-7) 機能訓練

部門目標	利用者の思いを汲み取り、他職種との連携を図って援助を行って行きます。		
	重点目標	現 状	今 後
①	専門職としての視点から利用者の能力や可能性を念頭に置き、安全な生活環境や充実した生活を送れるよう支援に努めます。	・概ね達成できた。 ・各利用者に応じて、また状態変化に合わせ、都度対応を変更した。 ・安全に過ごされるよう環境や援助方法を検討・変更した。	・現在各丁目においては落ち着いて過ごしているため、引き続き利用者の可能性を評価し、必要な援助を実施していく。
②	クラブ活動やレクリエーションボランティアの方とも連携を図って、利用者の楽しみややりがいを提供していきます。	・7月から疥癬が発症・流布が見られ、クラブ活動やボランティア活動は自粛となった。 ・疥癬が治まった10月からクラブ活動やボランティア活動が再開となり、声掛け等さんかを働きかけ実施できた。	・疥癬が終息後取り組んで行く。 ・利用者が楽しみに参加できる様に継続する。
③	地域貢献活動（だんだん広場等）を通して、地域の方々の健康増進に努めます。	・毎週水曜日のだんだん広場では体操に取り組んでいる。	継続し取り組んで行く。

1-3-8) 相談支援

部門目標	地域の方々や利用者、ご家族、施設職員が繋がりを大切にし、利用者一人ひとりが最期の時まで自分らしく、楽しみのある生活が送れるような支援を目指します。		
	重点目標	現 状	今 後
①	利用者のアセスメントを充実させ、ご家族や施設職員と情報を共有します。	・カンファレンスでアセスメントシートが活用できている。また入所前の情報から神棚を設置してみたり演歌を流してみたり等その人らしく過ごせるよう取り組みが行えている。 ・受診時に家族からの情報収集も行っている。 ・家族の面会時に情報提供を収集し連携に努めている。	・面会時に他職員からも家族に声を掛けてもらえるよう働きかける。 ・看取りのカンファレンス、偲びのカンファレンスが定着できるように取り組む。 ・家族にお願いしている「入所前のご様子について」が未回収の家族には再度ケアプランと一緒に送付し、提出いただけたらお願いする。
②	地域に暮らす方々のボランティア活動を受け入れ、利用者が楽しみややりがいを持てるクラブ活動や外出を通し、地	・疥癬が発症したため、年間行事計画通りに行うことができなかった。 ・疥癬終息後は地域に暮らす方々とつながり、活動できている。	・疥癬が終息に向かっているため、10月からは年間行事通りに取り組む。 ・あっとホーム等でボランティアの募集を行って行く。 ・ハンドマッサージやネイルボランティアな

域との繋がりを目指します。	ど再来していただけるよう取り組む。 ・あっとホームでボランティアの募集を行う。
---------------	--

1-4) 障害支援課 (さいはま園)

部門目標	さいはま園の役割を発信し、「心地良い施設」を目指します
重点目標	<p>①利用者の「自分でできる」という思いを大切にした自立支援と、「なりたい自分」を目指す自己実現を支援し、QOLの向上を目指します。</p> <p>②「人権尊重と尊厳の確保」を実践し、人権意識向上委員会の3原則を遵守した一人ひとりを大切にす施設を目指します。</p> <p>③福祉施設として担っている役割を発信し、さいはま園の取り組みや長所、福祉の魅力がコミュニティに浸透するよう努めます。</p> <p>④夕映えの郷との連携により、コミュニティの多種多様な障害者の実情を把握し、障害福祉の専門性を生かした体制を構築します。</p> <p>⑤職員同士が相談しやすい環境で「協議(目的を合わせる)・協力(力を合わせる)・協調(心を合わせる)」のチーム力で働きやすい職場を目指します。</p>
総括	<p>①利用者の「思い」や「できる」を大切にしながら、6か月ごとの面談やプラン作成を継続している。ご家族様のカンファレンス出席は少数ではあるが、プラン作成時にはご家族様に意向を確認している。</p> <p>②人権向上の活動としては、毎月目標を設定し、部署内で評価を継続している。</p> <p>③ホームページでは、当園の活動を掲載してもらえるよう写真や記事等の情報提供を積極的に行っている(4~3月間 24件提供)</p> <p>④夕映えとの連携では、11月にじよんのびカフェを実施した。開催時は、双方の利用者の交流がみられ、今後の継続にも期待ができる。2月の節分会では、メンバーさんが鬼役を担当して下さい、利用者との交流が一段と深まった場面もあった。また、就労実習では、業務の一部を担ってもらうことで当園の業務軽減にもつながり、ますます今後の連携について検討を強化しけるよう目指していく。</p> <p>⑤モニタリング開催日を固定から、流動的な設定に変更し出席率は向上している。</p> <p>入院日数 H30 4~3月(入退院日含まず) 205日間 述べ6人 H29 # 338日間 述べ8人</p>

1-4-1) 障害者支援施設 (生活介護・施設入所支援)

部門目標	「ひとりのニーズに機能する施設」を目指します。		
	重点目標	現状	今後
①	利用者や家族の意向を反映させた「求められている支援(重度化・高齢化・医療的ケア)や体制」を構築します。	現在、ご家族様のカンファレンス出席は少ないが、事前に出席の有無は確認している。出席できない場合でもご家族様の意向を確認している。	本人様の希望は、適宜伺い、必要時は専門職やご家族様との調整につなげているため、今後も継続していく。引き続き、ご家族様の出席も働きかける。
②	その人を支えているもの(人)・大切にしているもの(人)を理解し、個別支援計画に基づいた「一人ひとりを重視した支援」を行います。	また、カンファレンスでは、意思決定が難しい場合でも、本人様には出席していただき、反応や表情を全職種で共有し、すべての利用者様において意向をくむよう対応している。	
③	利用者の要望や相談事に真摯に取り組み、「安心できる暮らしの場」として機能します。	年度内の苦情は1件あり。ご利用者様・ご家族様が気になる前に説明することで、不要に心配することのないように対	利用者様とご家族様との意向の違いから、利用者様が自分の状況を家族に説明できなかったり、障害によりご自分の状

		応ずることをスタッフ間で周知した。	況を言えない場合がある。その際の橋渡しをスタッフが言い、利用者の意向を反映させ、安心して暮らせる場を提供していく。また、面談時での要望や相談事は、スタッフが一緒に解決できる旨を伝え、安心できるようにしていく。
④	夕映えの郷との合同行事を通して、利用者の生活の幅や可能性を広げ、「交流のおもしろさと活躍する場」を作ります。	11月にじよんのびカフェを開催し、毎週のここはま会も継続中。今年度中にも数回に渡り、合同行事を実施した。お互いに声を掛け合う姿があり、合同作品作りや展示などを通して連帯感も出ている。	お互いを気かけたり、助け合いや社会性など垣間見る場面もあり、今後も貴重な交流の場として継続していく。
⑤	業務軽減を図る機器やさらなる福祉支援用具の導入により、福祉職の重労働を見直し、一層の効率化と業務軽減を図ります。	離床支援ベッド・自動体位交換マットを導入。各段に介助が軽減された。また、固定式リフトや排泄支援用具なども、検討・導入に向けて始動している。	導入したものについては、利用者、スタッフともに負担軽減につながっており、引き続き、福祉機器の導入を目指していく。また、ますますの介護の生産性をあげるよう、今後も対策を実行していく。

1-4-2) 短期入所 (ショートステイ)

部門目標		コミュニティ拠点としての施設を目指します。	
重点目標	現状	今後	
① 緊急時や災害時の福祉避難所として機能し、円滑な受け入れ対応を目指します。	7月に通報訓練、11月に大規模な総合避難訓練、1月に夜間想定訓練を実施した。適宜、夕映えの郷とも連携を確認することができた。	新たに福祉避難所申請が1件あり(計3名受け入れ予定)。利用予定者は、当園を利用されていない経緯もあり、受け入れがスムーズに行くよう定期的な利用を働きかけている。今後もさらに緊急時の受け入れ体制についてを構築していく。	
② 重度の障害がある方や医療的ケアを必要とされる方を支える施設として、行政や相談支援事業所と連携を図り、受け入れ体制を整えます。	医療行為を要する方の受け入れを実施している。現状では、利用者のニーズと施設の体制をマッチングさせ、利用に至っている。	入所者の重度化増加により、短期入所の方の医療には限度があり、受け入れは難しい状態にあるが、現在の希望者には対応できている。現在も医療面や、生活介護利用の打診もあるが、受け入れ体制について検討していく。	
③ レスパイト機能だけでなく、将来の施設生活に安心感が持てるよう、入所待機の間としても機能します。	在宅のレスパイトでは定期的な利用者が増加している。 利用率 H30 4~3月 89% H29 75%	今後も継続する。	
④ 共生型サービスは、制度の動向や、利用者状況を見据えうえて体制を整えます。	同種の施設では動きはないが、法人の動向により体制を整える。	今後も法人の動向に対応する。	
⑤ 利用者の多様性(障害種別の多様	この期間中は、障害特性を学ぶ機会を	この間、外部研修では障害特性学習につい	

化・家庭環境の変化など)に応じた体制を整え、障害についての知識を学び、専門性を向上させます。	持つことができなかったが、個別の障害特性については、ご家族様にも確認したり、障害学習資料を回覧し、理解を深めている。	で開催されなかった。施設内研修でも、障害特性を学ぶ機会を構築することができなかったため、今後も課題とする。
--	--	---

1-5) 管理課

部門目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の「喜び」を引き出せるサービス提供に努めます。 ・「安心・安全」「効率・効果的な経営」に努めます。
重点目標	<p>(管理課重点目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①施設利用者が、安心・安全に生活ができるようサービス向上に努めます。 ②利用者の声に耳を傾け、食事に対する満足度を高めていきます。(利用者に寄り添う、食事提供に努めます。) ③職員、法人組織間の連携を通して効率・効果的な経営に努めます。 ④職員が安心・安全に働ける職場施設環境に努めます。 ⑤安定的・発展的な事業経営ができるよう、業務の改善に努めます。 ⑥職員一人ひとりが生き生きと働けるよう職場の活性化に向けて、職員の健康と精神的健康の増進を図り活力ある組織づくりを推進します。
総括	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房では口腔ケア研修、食中毒予防研修を実施し、現場と協力しご利用者へのサービス向上と衛生管理の向上に努めた。また、入所・通所サービス利用者の食事提供に関する嗜好調査を実施し、施設利用者のサービス向上に努めた。 ・各部署での感染症(疥癬)対応として、事務では消耗品の手配はインターネットや市内の薬局をまわる等他職種と連携しながら業務を行った。また、委託先の洗濯員への情報量が足りなかったため、洗濯員が安心して業務が行えなかった点を反省点とし、日々の施設内の感染情報を共有する仕組みを整えた。厨房では疥癬対応とし、介護現場の負担軽減を図るため食事の提供時間を調整し協力した。 ・保安業務では修繕は現場と事務に情報共有され円滑に行うよう努めている。フィルターや換気扇の清掃について、計画的に実施できず予定した期限までに終わらなかった為、次年度は早めに計画を立て実施する。 ・衛生委員会で職場環境チェックを実施し、職員の心身の健康と、施設備品等の安全衛生環境の改善に努めた。今年度は地震対策とし転倒防止策を要する備品を調査し災害に備えた安全対策を実施した。 ・労働災害は不休災害2件発生したが、職域間で情報共有し再発防止に向けた啓発活動を行った。 ・すぐしやすく働きやすい職場環境づくりとして、全館の温湿度調査を実施し温湿度計の入替・換気扇の修理を行った。また全職域職員休憩室の畳調査を行い経年劣化による畳の入替を実施した。 ・外部講師によるメンタルヘルス研修(アンガーマネジメント・怒りのコントロール)を実施し職員の心の健康づくりに努めた。 ・労働基準法改正・働き方改革に向け、施設職員の有休取得率実態調査を行い内容分析し公表する等制度改革に向けての取組を行った。

1-5-1) 厨房

部門目標	「食べる喜び」を感じて頂き、おいしく安全な食事の提供に努めます。	
重点目標	現状	今後
① 他職種との連絡調整を密にし、工夫や配慮を加え、心のこもった食事提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ミキサー粥に関して味ご飯は混ぜる具材や塩分の関係で固まりにくく、現場で調整してほしいとお願いしているが、意見表でゆるいと言う意見が数多く記載あり。味ご飯の時は粉(プリンナール)を増量する方向で検討し、 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事形態やメニュー等、給食運営会議等で現場の意見を聞き、他職種と協力して心のこもった食事提供に努めていく。

	供に努めます。	<p>粉を増やしてもゆるい時は調整をお願いする事とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケア研修会を開催し、口腔ケアの大切さを他職種と共有することができた。 ・疥癬発生に伴い、介護職の業務増加に対応するため、厨房でも食事を10分早く出すなどの協力をした。 ・入所、通所サービス利用者の嗜好調査を実施した。 ・ムース食に関する調査を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年定期的に口腔ケア研修を行うことで、口腔リハビリ等、利用者の口腔機能維持向上に努めていく。 ・他職種と連携して業務に取り組んでいく。 ・調査結果を他職種と共有し、サービス向上に努めていく。 ・現状の課題と現在可能な対応を丁寧に説明し、前向きに取り組んでいく。
②	選択メニューや郷土食など楽しみにしていただける様な食事を心がけます。	<ul style="list-style-type: none"> ・あごすけ様のラーメンボランティアに他職種とともに協力し、利用者様に喜んで頂けた。 ・初めて夏の献立にアイスクリームを提供した。 ・11月30日に川渡餅を提供した。 ・12月と1月に生寿司を提供した。 ・ミキサー食の方から豆腐はミキサーにかけない状態で食べたいと意見有り、各職種と調整し、そのまま出すこととなった。 ・毎週新メニューを入れることが継続できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新製品なども取り入れ、バラエティに富んだ食事提供を心がけていく。 ・不可能と考えていることを可能とするようにしていく。 ・利用者に喜ばれる食事の提供を心がけていく。 ・利用者の要望に耳を傾け、他職種と連携しながら、改善していく。 ・マンネリ化を防ぐ意味でも、色々な商品を取り入れていく。
③	衛生管理を徹底し食中毒を予防します。	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房内に小バエが多数飛来していたため、排水溝のパイプの洗浄と小バエ取りを設置し、飛来数を減らすことができた。 ・食中毒予防研修会に参加し、施設内で復命研修会を行った。(6月) ・ダムウェイターの清掃について、万が一の事故で調理員が大げがをしないよう、掃除の仕方を見直した。 ・12月に食器洗浄機の入替を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理を徹底し、安心安全な食事提供に努めていく。また、保安員と協力し排水溝の衛生にも努めていく。 ・食中毒が発生しやすい時期に研修会を実施することで、厨房と現場とが一体で衛生管理を意識することができるので、毎年継続していく。 ・その他の衛生管理についても、点検を行っていく。 ・食器洗浄機に関しては、使用する上で不都合な点が浮上しているが、業者と連絡を取り合い改善していく。

1-5-2) 事務

部門目標		・業務改善を常に念頭に置き、効率的な経営に努めます。	
重点目標		現 状	今 後
①	光熱水費、経費等のコスト削減に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・食材料費について、小麦の値上がりにより麺の仕入れ価格が上がった。(そば、うどん、中華 1kg 10円~20円の値上げ) ・冷温水発生機の水質検査費用の再見積を実施 (22,680円→19,440円) ・食器洗浄機の入替について、複数の業者と比較できるよう厨房と情報共有し連携を取った。(312万円) ・消耗品(ゴミ袋)の値上がりに対し、他 	<ul style="list-style-type: none"> ・食材は気候の変動により仕入れ価格が自然と左右されてしまう。消耗備品について値上げされた場合は、他の業者と比較する等する。 ・定期検査等の委託費についても、今後も他の業者と比較しコスト削減に努める。 ・結果的に現状の業者で値上がりとなったが、今

		社からも見積もりを取って比較した。 ・施設全体で節電意識をもつよう11月の連携推進会議で半期分の水道光熱費の使用量を公表した。	後も同様のケースがあれば見積り比較する。 ・節電対策取組の一環として今後も定期的に職員会議で公表する。
②	情報を共有し、円滑な外部対応を行います。	・他職種からの伝達事項等を事務所で迅速に共有し、円滑に対応できるよう心がけている。 ・6月下旬からの疥癬対応について、入浴日の変更等について、委託先の洗濯場と情報共有ができなかった。事務では急ぎの消耗品購入についてインターネット購入、他職種と連携し市内の薬局をまわる等迅速に手配するよう努めた。 ・疥癬の症状等について洗濯員に口頭で知らせたが資料で詳しく知らせていなかったため、感染症の知識について資料を配付し安心して作業できるようにした。	・引き続き、他職種とも連携を取り、情報共有に努める。 ・入浴日の変更が考えられる場合は、「変更届け」を洗濯場に出すよう、早めに現場にアナウンスする。また施設内の感染情報を介護現場と同様に情報共有することを継続する。 ・今後も、感染情報として新たな知識や対策があれば、洗濯員にも知らせ情報の共有化を図る。
③	労務情報の共通管理により、効率化と迅速な対応に努めます。	・採用・退職・欠勤等労務情報の共有により、効率的な準備や事務処理の状況確認に活用している。	・引き続き、情報を迅速に活用できるよう努める。
④	経理業務において、会計ソフトの機能習得と会計事務所との連携により、正確で効率的な業務を行います。	・会計事務所の巡回監査と的確なアドバイスにより、正確な会計処理を遂行している。	・今後も、会計事務所からの指摘や助言を担当者間で共有し、施設全体で整合性の取れた処理を行うよう心掛ける。
⑤	他職種の業務を支える職場環境と組織づくりを目指します。	・労務等の専門知識を生かし、職員からの問い合わせにも迅速に対応している。 ・衛生委員会で職場環境チェックを実施。(8月回収、集計) ・職場環境チェック結果を管理職間で9月情報共有。10月衛生委員会で職場環境チェック結果を公表し、備品の調査・修繕状況を説明。 ・地震対策として、転倒防止策を要する備品を調査し災害に備えた安全対策を実施した。 ・職員から湿度が高く過ごしにくいとの意見を受け居室等全館の湿度調査を実施。温湿度計が経年劣化により正確に計測できないことが判明、全館の計器を入替、快適に過ごせるよう居室等全館の温湿度管理を行うようにした。 ・10月に外部講師を招いてメンタルヘル	・職員が安心して業務に集中できるよう情報提供に努める。 ・毎年職場環境チェックの実施を継続する。 ・職場環境チェックを集計し管理職で情報共有し職場環境の改善に努める。又、設備面での不安や不備な事項については保安員が順次対応し必要に応じ業者を交えて調査、修理を行っていく。 ・今後も快適に過ごせる職場環境を維持できるよう衛生委員会等で職員からの意見や要望を聞くようにする。 ・今後も年1回のペースでメンタルヘルス研修会

		<p>ス研修を実施（内容：アンガーマネジメント、感情のコントロール）</p> <p>法人全体で54名の参加があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月に利用者によるケガを受け労災となる。（不休災害） ・10月送迎車輛のリフト操作中に運転員ケガによる労災発生。（不休災害） ・11月衛生委員会にて、当施設の有給休暇調査結果を報告。有休取得50.7%、平均8.8日、最も少ない労働者0日 	<p>を行い、職員の心の健康づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も労働災害防止に向けた啓発活動を実施、衛生委員会で情報共有し再発防止の取組を行っていく。 ・毎年、有給休暇の取得率を報告し各ユニットで有給休暇取得意識を高めるよう意識付けを行うことを今後も継続する。
⑥	法人間で経理業務や経費削減を効率・効果的に行うよう努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・しおさいの里での前年度の節水装置効果検証データを夕映えの郷に情報提供し業者紹介を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人間で情報共有し効果的な経営に努める。

1-5-3) 保安、宿直、清掃

部門目標		利用者が安心、安全、快適に施設を利用できるよう各職種間と連携を取りながら効率、効果的な業務に努めます。	
重点目標	現 状	今 後	
① 保守・修繕において職種間と連携し、効率効果的な業務に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に現場へは保安員が事前連絡をしているが、現場内の徹底には至っていない。 ・修繕の予定について、各職域共用のパソコンによる連絡伝達ファイルを利用し事前に連絡するよう心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前連絡をした際に現場内の伝達もしっかり依頼する。 ・修理連絡が当日にならないよう、早めに連絡するよう努める。 	
② 設備機器の更新に際し、効率化が図られるよう努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・電灯のLED化を含めて、先を見据えた修繕になるように努めている。 ・LED化が次年度に先送りとなったことで、電灯の不具合が生じている。 ・エレベーター点検により将来的な修繕案を業者と検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンテナンスを含めて引き続き先を見据えた設備等の修繕を行う。 ・更衣室や汚物処理室等、大規模改修とならない部分のLED照明直結工事の実施、施設のLED化は次年度継続予定。 ・内容を精査し次年度予算に計上（約200万円） 	
③ 安全と清潔を心がけ、利用者と職員が生き生きと働ける環境づくりに努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・フィルター清掃に関しては、一まわり終了しているが、清掃の回数を多くしなければならない所（脱衣場等）を清掃しきれていない。 ・清掃員退職により人員減であったが、シフト変更しながら協力し清掃分担を行った。 ・運転員の業務空き時間に手すりや腰板を拭いてもらうことで効率的に清掃業務を行えた。 ・各部署から衛生面の改善として、浴室タイルの汚れ、脱衣場床の張り替え希望があがった。デイサービス、さいはま園、7丁目の脱衣場床張替を実施。浴室のタイルは高圧洗浄機を使用し保安員が汚れ落としを行った。 ・職員より、湿度が高い部署があり過ごしにくいとの相談を受ける。施設保安員と協力し居室 	<ul style="list-style-type: none"> ・各場所の換気扇清掃はスパンを決めて定期的実施する。次年度は早めにフィルター清掃の計画を立て保安員を中心に継続的に年2回を目処にフィルター清掃を実施する。 ・急なシフト変更でも清掃業務に支障がないよう対応していく。 ・運転業務の空き時間の利用について、内容を整理し効率よく環境整備等が行われるようにする。 ・継続的に浴室タイルは保安員が高圧洗浄機を使用し洗浄を行う。脱衣場の床張替は業者に依頼する。 ・温度や湿度については空調設備、換気設備、冬場は加湿器等で調整を行う。加湿器等比較的軽微 	

		<p>等の温湿度を調査。結果、各部署設置の温湿度計が劣化により入替要と判明。全館、入替を実施。湿度対策として換気扇の調査を実施後、業者による換気扇調査実施。デイスービスの換気扇修理。(20.5万円)</p> <p>・デイスービス休憩室畳について劣化を理由に入替の要望が上がる。全職域の確認調査実施、休憩室計5ヶ所の畳の入替を要することが判明し入替実施。(19万円)</p>	<p>な備品は職員による故障が上がるが、空調、換気設備については専門業者の調査を要する。利用者や職員が体調を崩さないよう設備の不調の際は迅速な対応を行うよう現場と連携しながら今後も修理や改善を行っていく。</p>
④	施設内外の美化及び、報連相の徹底を行います。	<p>・現場や上司への報連相を極力行うように努めている。</p> <p>・車庫脇及び浄化槽制御盤脇の枝木をクリーンセンターに持ち込み処分した。</p> <p>・台風でJR敷地内の樹木が施設駐車場内に落ちる等の問題が発生、枝木を・JRに相談しJRより線路沿い樹木の伐採実施。</p> <p>・施設デイルームのカーテンについて汚れを理由に入替の要望が上がる。レースカーテンについては破れもあることから買替えた。(7.2万円) ・6丁、7丁のデイルームカーテンは洗濯(委託)することで汚れが落ちた。</p> <p>・施設全体の床が黒ずみ通常の清掃では落ちない汚れが付着している。</p>	<p>・さらに細かい事も含めて、報連相を徹底する。(自己判断はしない)</p> <p>・中庭や駐車場脇の草木について、保安員、運転員、宿直員の協力と連携を得ながら手入れを行い環境美化に努めていく。</p> <p>・今後も定期的に洗濯を行うことで清潔を心がける。</p> <p>・専門業者によるワックス掛けを検討。次年度予算に計上し実施することとする。(約60万円)</p>
⑤	3S(整理、整頓、清掃)を行い、5SC(整理、整頓、清潔、躰)を目指します。	<p>・処分物は溜めないようにしている。</p> <p>・車庫の整理片付け実施。タイヤ交換時期に備え車庫内の作業スペース等整理整頓を行った。車庫はまだ整理できていない所がある。</p>	<p>・作業しやすく使いやすくなるよう工夫し、配置・整理を行う。</p> <p>・車庫内に保管されている備品に不必要な物はないか洗い出し廃棄物を処分していく。今後も整理・整頓・清潔に努める。</p>

平成30年度事業別利用実績

1. 高齢福祉部門

<介護老人福祉施設:特別養護老人ホームしおさいの里>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	要介護1	120	124	120	124	124	120	124	120	124	155	140	155	1,550
	要介護2	330	341	330	341	341	300	291	240	248	248	203	200	3,413
	要介護3	680	711	690	676	625	660	682	690	694	678	588	644	8,018
	要介護4	818	806	780	835	837	805	815	840	881	891	851	1,013	10,172
	要介護5	1,131	1,134	1,147	1,203	1,185	1,136	1,161	1,089	1,101	1,091	954	1,071	13,403
	合計	3,079	3,116	3,067	3,179	3,112	3,021	3,073	2,979	3,048	3,063	2,736	3,083	36,556
実人数	要介護1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	51
	要介護2	11	11	11	11	11	10	10	8	8	8	8	7	114
	要介護3	24	24	23	22	21	22	22	23	23	22	21	21	268
	要介護4	28	26	26	27	27	27	27	28	29	30	31	33	339
	要介護5	38	39	39	41	40	39	38	37	37	37	36	36	457
	合計	105	104	103	105	103	102	101	100	101	102	101	102	1,229
運営日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
利用率(%)		98.7	96.7	98.3	98.6	96.5	96.8	95.3	95.5	94.5	95.0	94.0	95.6	96.3
平均要介護度		3.82	3.80	3.82	3.83	3.84	3.84	3.85	3.85	3.85	3.82	3.83	3.86	3.83

<通所介護・総合事業:デイサービスセンターゆりかご荘>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	事業対象者	52	55	55	58	60	61	66	69	60	69	55	58	718
	要支援1	36	43	41	37	36	42	50	55	46	51	54	72	563
	要支援2	63	47	47	47	45	44	49	55	58	53	46	31	585
	要介護1	112	134	127	129	132	131	148	182	195	205	182	194	1,871
	要介護2	211	226	220	226	228	240	251	247	233	221	189	229	2,721
	要介護3	86	87	87	94	89	87	95	80	91	85	94	122	1,097
	要介護4	47	40	36	20	24	23	17	20	28	21	28	26	330
	要介護5	40	43	46	39	35	29	44	44	40	41	33	37	471
	合計	647	675	659	650	649	657	720	752	751	746	681	769	8,356
	実人数	事業対象者	9	10	10	9	11	12	12	14	13	14	12	12
要支援1		7	8	8	8	6	9	9	10	10	10	10	11	106
要支援2		8	7	6	6	6	6	6	7	8	9	7	5	81
要介護1		15	15	16	17	17	17	17	22	23	28	26	26	239
要介護2		22	22	19	21	21	22	23	25	24	24	23	24	270
要介護3		8	7	7	7	7	7	7	7	8	8	9	9	91
要介護4		8	6	5	4	4	4	3	2	3	2	3	3	47
要介護5		4	4	4	3	3	3	4	4	4	4	4	3	44
合計	81	79	75	75	75	80	81	91	93	99	94	93	1,016	
運営日数	25	27	26	26	27	25	27	26	26	27	24	26	312	
平均利用数 (利用者数/ 運営日数)	事業対象者	2.1	2.0	2.1	2.2	2.2	2.4	2.4	2.7	2.3	2.6	2.3	2.2	2.3
	要支援	4.0	3.3	3.4	3.2	3.0	3.4	3.7	4.2	4.0	3.9	4.2	4.0	3.7
	要介護	19.8	19.6	19.8	19.5	18.8	20.4	20.6	22.0	22.6	21.2	21.9	23.4	20.8
	合計	23.8	23.0	23.2	22.8	21.8	23.8	24.2	26.3	26.6	25.1	26.1	27.3	24.5
利用率(%)		69.9	67.6	68.5	67.6	65.0	71.0	72.1	78.2	78.1	74.7	76.7	79.9	72.4
平均要介護度		1.94	1.90	1.92	1.84	1.83	1.78	1.79	1.72	1.76	1.69	1.74	1.78	1.80

* 平均要介護度: 要支援1=0.375、要支援2=1で計算

<(介護予防)短期入所生活介護:しおさいの里ショートステイ>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	6
	要支援2	5	12	14	4	7	3	6	8	3	3	3	2	70
	要介護1	37	43	29	52	54	35	35	48	40	39	44	61	517
	要介護2	124	125	97	82	88	87	94	106	84	78	74	96	1,135
	要介護3	19	63	29	25	33	49	37	47	63	99	77	64	605
	要介護4	121	119	138	129	141	130	113	81	123	94	54	88	1,331
	要介護5	13	12	15	9	8	12	16	47	43	49	44	35	303
合計	319	374	322	301	331	316	301	337	356	365	296	349	3,967	
実人数	要支援1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3
	要支援2	1	3	2	1	1	1	2	2	1	1	1	1	17
	要介護1	5	6	5	7	7	5	4	7	6	7	8	10	77
	要介護2	17	17	13	12	12	11	15	13	12	10	10	13	155
	要介護3	4	4	5	4	4	5	3	3	4	5	5	5	51
	要介護4	9	9	12	10	10	11	11	9	11	8	5	8	113
	要介護5	2	2	2	2	1	2	3	3	3	3	3	3	29
合計	38	42	39	36	35	35	38	37	37	35	32	41	445	
運営日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
平均利用数 (利用者数/ 運営日数)	要支援	0.2	0.4	0.5	0.1	0.2	0.1	0.2	0.3	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2
	要介護	10.5	11.7	10.3	9.6	10.5	10.4	9.5	11.0	11.4	11.6	10.5	11.1	10.7
	合計	10.6	12.1	10.7	9.7	10.7	10.5	9.7	11.2	11.5	11.8	10.6	11.3	10.9
利用率(%)		88.6	100.5	89.4	80.9	89.0	87.8	80.9	93.6	95.7	98.1	88.1	93.8	90.6
平均要介護度		2.81	2.75	2.95	2.84	2.84	2.97	2.90	2.87	3.11	3.06	2.91	2.79	2.90

* 平均要介護度: 要支援1=0.375、要支援2=1で計算

<居宅介護支援:しおさいの里居宅介護支援事業所>

実人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	事業対象者	4	4	4	2	2	3	7	9	9	8	8	8
要支援1	5	5	7	7	6	9	8	8	9	9	7	9	89
要支援2	14	16	14	14	13	16	17	16	18	17	17	17	189
要介護1	34	39	36	38	42	41	43	51	48	48	49	53	522
要介護2	27	30	24	25	26	27	29	37	37	32	36	35	365
要介護3	15	16	16	17	17	17	19	19	21	20	21	20	218
要介護4	12	10	17	15	11	11	9	7	8	7	9	10	126
要介護5	3	4	5	2	3	3	4	4	3	4	3	2	40
合計	114	124	123	120	120	127	136	151	153	145	150	154	1,617
平均要介護度	1.86	1.81	1.96	1.88	1.83	1.77	1.72	1.65	1.66	1.66	1.70	1.65	1.75

* 平均要介護度: 要支援1=0.375、要支援2=1で計算

(前年度2.02)

<介護予防支援:しおさいの里地域包括支援センター>

実人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	事業対象者	40	42	40	38	43	43	48	48	46	42	44	47
要支援1	60	65	71	68	70	71	79	82	76	73	75	81	871
要支援2	121	128	127	120	122	128	133	137	140	138	142	126	1,562
合計	221	235	238	226	235	242	260	267	262	253	261	254	2,954
平均要介護度	0.65	0.65	0.65	0.64	0.63	0.64	0.63	0.63	0.64	0.65	0.65	0.62	0.64

* 平均要介護度: 要支援1=0.375、要支援2=1で計算

(前年度 0.53)

2. 障害支援部門

<障害者支援施設さいはま園:生活介護>

延人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分4	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269
区分5	88	92	88	92	92	88	92	88	92	92	80	92	1,076
区分6	317	335	330	333	345	316	341	318	335	345	295	343	3,953
合計	427	450	440	448	460	426	456	428	450	460	395	458	5,298
実人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
区分4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
区分5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
区分6	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
合計	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
運営日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269
利用率(%)	97.0	97.8	100.0	97.4	100.0	96.8	99.1	97.3	97.8	100.0	98.8	99.6	98.5
平均障害程度区分	5.69	5.69	5.70	5.69	5.70	5.69	5.70	5.69	5.69	5.70	5.70	5.70	5.70

<障害者支援施設さいはま園:施設入所支援>

延人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	区分3以上	571	588	595	600	620	570	600	571	602	620	547	610
運営日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用率(%)	95.2	94.8	99.2	96.8	100.0	95.0	96.8	95.2	97.1	100.0	97.7	98.4	97.2

<障害者支援施設さいはま園:短期入所>

延人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分2	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分4	26	26	30	33	32	31	30	33	31	4	23	30	329
区分5	0	0	2	0	0	2	7	11	6	30	8	0	66
区分6	30	28	23	21	28	22	23	13	15	13	21	22	259
区分1(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分2(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分3(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	56	56	58	54	60	55	60	57	52	47	52	52	659
実人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分4	3	3	4	3	2	2	2	2	2	3	3	2	31
区分5	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	4
区分6	3	5	3	4	6	5	5	5	2	4	4	5	51
区分1(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分2(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分3(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	6	9	8	7	8	8	8	8	5	7	7	7	88
運営日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
平均利用者数	1.9	1.8	1.9	1.7	1.9	1.8	1.9	1.9	1.7	1.5	1.9	1.7	1.8
(利用者数/運営日数)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	1.9	1.8	1.9	1.7	1.9	1.8	1.9	1.9	1.7	1.5	1.9	1.7	1.8
利用率(%)	93.3	90.3	96.7	87.1	96.8	91.7	96.8	95.0	83.9	75.8	92.9	83.9	90.3
平均障害程度区分	5.07	4.93	4.72	4.78	4.93	4.84	4.88	4.65	4.69	5.19	4.96	4.85	4.87

(障害児除く)

年度別利用率の推移(過去10年間)

1. 高齢部門

<介護老人福祉施設:特別養護老人ホームしおさいの里> 定員:104人

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
運営日数(日)	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365
延べ利用者数(人)	34,397	35,491	34,745	34,987	35,060	35,599	36,671	36,601	37,044	36,556
1日平均利用者数(人)	94.2	97.2	94.9	95.9	96.1	97.5	100.2	100.2	101.5	100.2
利用率(%)	94.2	97.2	94.9	95.9	96.1	97.5	97.6	96.4	97.6	96.3
平均要介護度	4.12	4.11	4.12	3.94	3.86	3.72	3.69	3.75	3.82	3.83

*平成27年8月1日より100人から104人に定員変更

<(介護予防)通所介護:デイサービスセンターゆりかご荘> 定員:37人

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
運営日数(日)	313	313	314	311	313	313	314	313	313	312
延べ利用者数(人)	7,073	7,330	7,650	6,628	6,577	6,444	7,380	8,232	7,995	8,356
1日平均利用者数(人)	22.6	23.4	24.4	21.3	21	20.5	23.5	26.3	25.5	26.8
利用率(%)	75.3	78	81.2	71	70	68.6	78.3	71.1	69	72.4
平均要介護度	2.85	2.45	2.29	2.56	2.7	2.36	2.35	2.23	2.21	1.98
	-	2.2	2.13	2.42	2.54	2.14	2.11	2.09	2.05	1.8

*平成28年4月1日より30人から37人に定員変更

*平均要介護度:平成22年度より要支援(1・2)を含めた数値(下段)。

<(介護予防)短期入所生活介護:しおさいの里ショートステイ> 定員:12人

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
運営日数(日)	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365
延べ利用者数(人)	4,115	4,073	4,326	4,682	4,572	4,934	4,173	4,018	4,077	3,967
1日平均利用者数(人)	11.2	11.1	11.8	12.8	12.5	13.5	11.4	11	11.2	10.9
利用率(%)	80.5	79.6	84.4	91.6	89.5	84.5	85.6	91.7	93.1	90.6
平均要介護度	3.12	2.83	2.81	3.14	3.3	3.1	2.98	2.83	2.87	2.94
	-	2.81	2.8	3.12	3.28	3.08	2.93	2.81	2.86	2.9

*平成26年4月1日より14人から16人に定員変更

*平成27年8月1日より16人から12人に定員変更

*平均要介護度:平成22年度より要支援(1・2)を含めた数値(下段)。

2. 障害部門

<身体障害者療護施設さいはま園:入所> 定員:20人 *H23. 3. 31廃止

	平成 21年度	平成 22年度
運営日数(日)	365	365
延べ利用者数(人)	7,070	7,083
1日平均利用者数(人)	19.3	19.4
利用率(%)	96.5	97

<障害者支援施設さいはま園:生活介護> 定員:20人 *H23. 4. 1開始

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
運営日数(日)	270	269	269	269	270	269	269	269
延べ利用者数(人)	5,312	5,309	5,166	5,212	5,381	5,303	5,182	5,298
1日平均利用者数(人)	19.6	19.7	19.2	19.3	19.9	19.7	19.2	19.7
利用率(%)	98.4	98.7	96	96.9	99.6	98.6	96.3	98.4

<障害者支援施設さいはま園:施設入所支援> 定員:20人 *H23. 4. 1開始

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
運営日数(日)	366	365	365	365	366	365	365	365
延べ利用者数(人)	7,117	7,125	6,908	6,916	7,128	7,033	6,929	7,094
1日平均利用者数(人)	19.4	19.5	18.9	18.9	19.4	19.2	18.9	19.4
利用率(%)	97.2	97.6	94.6	94.7	97.4	96.3	94.9	97.2

<短期入所:さいはま園ショートステイ> 定員:2人

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
運営日数(日)	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365
延べ利用者数(人)	540	603	615	428	500	643	667	561	547	659
1日平均利用者数(人)	1.5	1.6	1.6	1.1	1.4	1.7	1.8	1.5	1.49	1.8
利用率(%)	67.5	82.6	84	58.6	68.5	88.1	91.1	76.8	74.9	90.3

入所利用者の状況(平成31年3月31日現在)

1. 特別養護老人ホーム
しおさいの里(定員:104人)

(1)年齢構成

年齢	男性	女性	男女計
～59	1	0	1
60～64	0	1	1
65～69	1	1	2
70～74	5	5	10
75～79	5	3	8
80～84	7	20	27
85～89	8	16	24
90～94	3	15	18
95～	0	10	10
合計	30	71	101
平均年齢	80.2	85.9	84.2
最年長	90	102	102
最年少	54	60	54

(2)要介護度

	男性	女性	男女計
要介護1	2	3	5
要介護2	1	6	7
要介護3	7	14	21
要介護4	12	20	32
要介護5	8	28	36
合計	30	71	101

*平均要介護度:(3.83)

(3)保険者

上越市	(大潟区)	23	97
	(柿崎区)	16	
	(頸城区)	11	
	(吉川区)	7	
	(上記以外)	40	
上越市以外の市町村		4	
合計		101	

2. 障害者支援施設
さいはま園(定員:20人)

(1)年齢構成

年齢	男性	女性	男女計
～39	1	0	1
40～49	1	1	2
50～59	4	2	6
60～69	7	3	10
70～	1	0	1
合計	14	6	20
平均年齢	60.1	59.3	59.9
最年長	84	69	84
最年少	29	46	29

(2)障害程度区分

	男性	女性	男女計
区分1	0	0	0
区分2	0	0	0
区分3	0	0	0
区分4	1	0	1
区分5	3	1	4
区分6	10	5	15
合計	14	6	20

*平均障害支援区分:(5.7)

(3)保険者

上越市	(大潟区)	5	18
	(柿崎区)	2	
	(頸城区)	1	
	(吉川区)	2	
	(上記以外)	8	
上越市以外の市町村		2	
合計		20	

3. 医療の状況

(1)入院の状況

しおさいの里	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
延べ入院者数(人)	32	35	23	27	23	41	22	23
総入院日数(日)	670	767	730	604	546	955	548	427
平均入院日数(日)	20.9	21.9	31.7	22.3	23.7	23.2	24.9	18.6

さいはま園	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
延べ入院者数(人)	12	9	17	21	8	11	14	6
総入院日数(日)	226	187	408	409	184	269	366	185
平均入院日数(日)	18	20	24	19.4	23	24.4	26.1	30.8

(2)経管栄養管理が必要な利用者数の推移(しおさいの里・さいはま園)

H22.3.31 現在	H23.3.31 現在	H24.3.31 現在	H25.3.31 現在	H26.3.31 現在	H27.3.31 現在	H28.3.31 現在	H29.3.31 現在	H30.3.31 現在	H31.3.31 現在
27	26	22	21	18	14	11	14	12	14

(3)痰の吸引が必要な利用者数の推移(しおさいの里・さいはま園)

H27.3.31 現在	H28.3.31 現在	H29.3.31 現在	H30.3.31 現在	H31.3.31 現在
28	31	14	37	33

4. 事故報告等

4-1. 事故報告の状況(報告先:高齢部門・各保険者、障害部門・新潟県)

30年度	特養入所	短期入所	通所介護	障害支援	合計
骨折	1	1			2
誤薬・誤飲	2	1		3	6
その他(窒息、内因死)	1	1			2
計	4	3	0	3	10

29年度	特養入所	短期入所	通所介護	障害支援	合計
	1			1	2
	2				2
					0
	3	0	0	1	4

4-2. 感染症等発生報告

インフルエンザ	利用者	4	(特養2、短期1、通所1)
	職員	14	
感染性胃腸炎	利用者	0	
	職員	0	

28年度	利用者	5
	職員	13
	利用者	0
	職員	3

5. 退所者の推移

しおさいの里	~平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	累計
施設内で逝去(看取り)	106	9	5	24	15	12	14	14	10	12	10	231
医療機関で逝去	48	5	1	3	5	5	5	1	13	2	10	98
自宅復帰又は自宅で看取り	3						1	1			1	6
医療機関等へ転院(長期入院等)	9	4			1	2	1	1			1	19
合計	166	18	6	27	21	19	21	17	23	14	22	354

さいはま園	~平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	累計
施設内で逝去(看取り)	1									1	0	2
医療機関で逝去	4					1	1		2	1	0	9
自宅復帰(地域移行)	2										0	2
医療機関等へ転院(長期入院等)		2			1	1	1				0	5
合計	7	2	0	0	1	2	2	0	2	2	0	18

6. 入所待機者の状況(過去10年間)

(しおさいの里)

	上越市					他市町村	合計
	大潟区	柿崎区	頸城区	吉川区	左記以外		
H22.3.31現在	84	98	41	53	157		433
H23.3.31現在	89	98	49	51	168	10	465
H24.3.31現在	82	84	56	63	172	10	467
H25.3.31現在	93	94	69	81	205	17	559
H26.3.31現在	95	92	67	88	188	17	547
H27.3.31現在	84	67	48	76	146	15	436
H28.3.31現在	37	35	20	27	71	7	197
H29.3.31現在	44	40	29	24	65	6	208
H30.3.31現在	44	30	23	23	73	6	199
H31.3.31現在	52	49	29	24	77	9	240

(さいはま園)

上越市	他市町村
11	
12	
10	
13	
13	
12	
11	2
12	1
9	1
11	1

事業・職種別職員数一覧

H31.3.31現在

職種別	事業別	特養	障害支援	通所介護	地域包括支援	居宅介護支援	合計
統括施設長兼事務長	正職員	1					1
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	1	0	0	0	0	1
課長	正職員	2	1				3
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	2	1	0	0	0	3
事務員	正職員	1	1				2
	臨時職員						0
	パート職員	1					1
	合計	2	1	0	0	0	3
生活相談員 (サービス管理責任者 含)	正職員	3	1	3			7
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	3	1	3	0	0	7
介護支援専門員	正職員	2			2	4	8
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	2	0	0	2	4	8
社会福祉士	正職員				3		3
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	0	0	0	3	0	3
看護職員	正職員	4	2		1		7
	臨時職員			1			1
	パート職員	3		3			6
	合計	7	2	4	1	0	14
機能訓練員	正職員	1	1	0			2
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	1	1	0	0	0	2
介護職員(生活支援員)	正職員	42	9	1			52
	臨時職員	10	1	7			18
	パート職員	4	2	1			7
	合計	56	12	9	0	0	77
管理栄養士	正職員	1					1
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	1	0	0	0	0	1
調理員	正職員	4	2	1			7
	臨時職員						0
	パート職員	1					1
	合計	5	2	1	0	0	8
施設支援員	正職員	1					1
	臨時職員						0
	パート職員						0
	合計	1	0	0	0	0	1
清掃員	正職員						0
	臨時職員						0
	パート職員	4	1				5
	合計	4	1	0	0	0	5
宿日直代行員	正職員						0
	臨時職員						0
	パート職員	1					1
	合計	1	0	0	0	0	1
保安員	正職員						0
	臨時職員	2					2
	パート職員						0
	合計	2	0	0	0	0	2
運転員	正職員						0
	臨時職員						0
	パート職員	1	1	3			5
	合計	1	1	3	0	0	5
(嘱託医師)	正職員						
	臨時職員						
	パート職員	②	①				③
	合計	②	①				③
合計	正職員	62	17	5	6	4	94
	臨時職員	12	1	8	0	0	21
	パート職員	15	4	7	0	0	26
	合計	89	22	20	6	4	141

* H31.3.31付け退職者含む

職員の動向等

1. 採用の状況(平成30年4月1日～平成31年3月31日、平成31年4月1日付採用内定者含む)

	介護職員	看護職員	相談援助	事務	保安員	運転手	清掃員	30年度計	29年度	28年度
応募者数	11	5		6	3	5	8	38	32	22
採用内定者数	10	4		2	2	5	5	28	23	14
採用辞退者数	2							2	1	1
本採用者数	8	4		2	2	5	5	26	22	13

雇用形態	正規	臨時	非常勤	計
	9	3	14	26

採用区分	新卒等	中途	障害者	計
		26		26

採用経路	ハローワーク	人材紹介	直接応募	計
	13	2	11	26

2. 退職の状況(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

退職者数	介護職員	看護職員	保安員	事務	運転手	清掃員	30年度計	29年度	28年度計	27年度計
	6	5	2	1	3	6	23	13	10	11

雇用形態	正規	臨時	非常勤
	8	1	14

3. 安全衛生管理の状況(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

3-1) 職員の平均年齢・性別(平成31年3月31日現在)

職員数	男性	女性	平均年齢	
141名	36名	105名	44.9歳	30年度
136名	36名	100名	44.4歳	28年度
132名	34名	98名	43.8歳	28年度

3-2) 職員健康診断の実施状況

定期健康診断	5月 (夜勤者)	11月 (全職員)	合計
受診者	47	127	174
要精密検査	6	97	103
産業医面談実施	0	6	6

3-3) 労働災害発生状況

内容	勤務中	通勤途上	合計
	2	0	2

* 不休災害1件

4. 育児休業の状況(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

	女性	配偶者が出産した男性	合計
出産者	3	2	5
育児休業者	3	0	3

5. 介護休業の状況(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

介護休業者	女性	男性	合計
	0	0	0

平成30年度施設外研修等(発表、講師等含む)一覧

日付	研修会・会議名等	主催	場所	参加者	参加人数
4/17	「介護報酬改定指導者説明会伝達研修会」介護支援専門員に係る介護報酬改定について～	(一社)新潟県介護支援専門員協会	新潟市	居宅支援	2
4/17	第1回RUN伴2018上越エリア会議	RUN伴2018新潟実行委員	市内	高齢介護	1
4/22	畑ヶ崎すこやかサロン(講師)	畑ヶ崎町内会長	市内	地域包括	3
4/24	グループホームふれあいの社上越 運営推進会議	グループホームふれあいの社 上越	市内	地域包括	1
4/28	第61回だんらん運営推進会議	株式会社だんらん	市内	地域包括	1
5/7,8	平成30年度新潟県主任介護支援専門員更新研修	(一社)新潟県主任介護支援専門員協会	新潟市	居宅支援、地域包括	2
5/11	平成30年度第1回上越市地域包括支援センター職員研修会	上越市長	市内	地域包括	6
6/13	平成30年第1回新潟県認知症ケア専門士会研修会 認知症の人の語りと支援 ナラティブアプローチ	新潟県認知症ケア専門士会	長岡市	認知症介護指導者	1
6/15	5月度 民生・児童委員協議会 定例会	頸城区民生委員・児童委員協議会	市内	地域包括	3
5/15,16	平成30年度新潟県主任介護支援専門員更新研修	(一社)新潟県主任介護支援専門員協会	新潟市	居宅支援、地域包括	2
5/17	第39回 担当者研修会	上越地域職域健康づくり連絡協議会	市内	管理課長	1
8/17	年輪会による5月講話	年輪会	市内	地域包括	1
6/21,22	平成30年度新潟県地域包括支援センター職員研修(第1回)	新潟県福祉保健部高齢福祉保健課長	新潟市	地域包括	4
5/23	「食品衛生管理における異物混入対策」「異物混入対策とHACCP 最新動向」	株式会社 タマラヤ	市内	栄養士	1
5/26	平成30年新潟県認知症介護実践講習(講師会議)	(社福)上越老人福祉協会	市内	認知症介護指導者	1
5/27	RUN伴2018上越エリア会議	RUN伴2018新潟実行委員	市内	高齢介護	1
5/28	運営推進会議	(社福)上越あたご福祉会	市内	地域包括	1
5/28	おおがた七夕まつり 出店予定団体打ち合わせ会	まちづくり大潟 上越社協大潟支所	市内	副施設長	1
5/29	平成30年度エイシン福祉教育センター スキルアップ研修 脳を活性化させる音楽療法	エイシン福祉教育センター	新潟市	高齢介護	1
5/30	2018年度福祉関係者のための成年後見活用講座(入門編)	(公社)新潟県社会福祉士会	新潟市	地域包括	4
5/31	個別ケア会議	大潟区総合事務所・頸城区総合事務所民生部・福祉グループ	市内	地域包括、居宅支援等	10
6/6,8	平成30年度新潟県主任介護支援専門員更新研修	(一社)新潟県主任介護支援専門員協会	新潟市	居宅支援、地域包括	2
6/7	平成30年新潟県認知症介護実践講習(講師会議)	(社福)上越老人福祉協会	市内	認知症介護指導者	1
6/8	平成30年障害福祉関係施設長会議	新潟県福祉保健部障害福祉課	新潟市	施設長、サビ管	2
6/12	上越地域居宅介護支援事業推進協議会研修会・総会	上越地域居宅介護支援事業推進協議会	市内	居宅支援	3
6/16	第62回だんらん運営推進会議	株式会社だんらん	市内	地域包括	1
6/18	入所判定会議	(社福)上越あたご福祉会	市内	地域包括	1
6/20	第5ブロック都会平成30年度第1回研修会	(一社)新潟県老人福祉施設協議会	市内	施設長、高齢介護	2
6/22,23	施設経営勉強会	あさひ園	弥彦村	障害課長、サビ管	2
6/26	ふれあい会(グループホームふれあいの社上越)運営推進会議	グループホームふれあいの社上越	市内	地域包括	1
6/27	平成30年度新総合サービス事業所取組発表会	上越市高齢者支援課長	市内	居宅支援	4
6/29	平成30年度 新潟県身体障害者施設協議会 第1回総会並びに施設長・庶務担当課長会議	新潟県身体障害者施設協議会	長岡市	障害課長	1
6/30,7/1	平成30年度新潟県主任介護支援専門員更新研修	(一社)新潟県主任介護支援専門員協会	長岡市	居宅支援、地域包括	2
7/5~6	地域の力を育もう！支援者のためのネットワーク実践力養成研修	(公社)新潟県社会福祉士会	新潟市	地域包括	1
7/6	平成30年度施設介護支援専門員研修会	(一社)新潟県介護支援専門員協会	新潟市	高齢介護	2
7/12	平成30年度第1回上越地域障害者支援施設等入所調整会議	新潟県上越児童・障害者相談センター	市内	障害課長	1
7/18	平成30年 第2回運営推進会議	樹楽上増田運営推進会議	市内	地域包括	1
7/18~20	平成30年度新潟県相談支援従事者初任者研修	(一社)新潟県相談支援専門員協会	新潟市	居宅支援、地域包括	2
7/20	平成30年度上越地区老人福祉施設事務員連絡会議	上越地区老人福祉施設事務員連絡会議	妙高市	事務	1
7/23~24	平成30年度新潟県身体障害者施設協議会職員研修会	新潟県身体障害者施設協議会	市内	施設長、障害支援	4
7/24~25	平成30年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程(中堅職員コース)	新潟県社会福祉協議会	三条市	高齢介護	1
7/31	平成30年度障害福祉サービス事業所・相談支援事業所等合同研修会	新潟県上越地域振興局健康福祉環境部	市内	障害支援	1
8/4	第63回だんらん運営推進会議	株式会社だんらん	市内	地域包括	1
8/5	「いきいき人生(翁婆)笑って元気事業」講師	頸城区公民館 明治分館	市内	デイサービス	1
8/7	平成30年度安全運転管理者等講習	新潟県警察本部交通企画課(一社)新潟県安全運転管理者協会	市内	施設長	1
8/7	病院と介護施設の風評を損なわないハードクレーム対策講座	株式会社新社会システム総合研究所	東京都	副施設長	1
8/8	平成30年度バザー講習会	上越保健所生活衛生課	市内	栄養士	1
8/10	新潟県立看護大学大学院 若年看護特論Ⅲ 公開授業	新潟県立看護大学老年看護領域	市内	地域包括	4
8/21	第1回頸城ブロック ケアマネ・訪問看護連携研修会	上越地域訪問看護ステーション連絡会	市内	居宅支援、地域包括	2
8/24	社会福祉法人上越社会福祉協議会と社会福祉法人上越頸城福祉会合同研修	大潟区福祉交流センター・頸城区介護支援センター・上越市介護支援センター	市内	居宅支援	4
8/26~9/7	平成30年度第2回認知症介護指導者養成研修	(社福)浴風会 認知症介護研究・研修東京センター	東京都	高齢介護	1
8/28	気づく力研修	新潟県社会福祉協議会	新潟市	高齢介護	1
8/30	大潟・八千穂地域運営委員会(拡大 運営推進会議)	社会福祉法人 上越あたご福祉会	市内	地域包括	1
9/2	「いきいき人生(翁婆)笑って元気事業」講師	頸城区公民館 明治分館	市内	森山圭哉	1
9/3	平成30年度災害対応研修	(一社)新潟県介護支援専門員協会	新潟市	居宅支援、地域包括	5
9/6~7	2018年度 養護者による高齢者虐待対応現任者標準研修	(公社)新潟県社会福祉士会	三条市	地域包括	3
9/11	第8回 ふれあい会(グループホームふれあいの社上越)運営推進会議	グループホームふれあいの社上越	市内	地域包括	1
9/11	平成30年度 健康保険委員研修会	全国健康保険協会(協会けんぽ)新潟支部	市内	管理課長	1
9/13	定期巡回・随時対応型訪問介護看護ケアプラン作成セミナー	上越市	市内	居宅支援	2
9/17	2018年度 養護者による高齢者虐待対応現任者標準研修	(公社)新潟県社会福祉士会	新潟市	地域包括	3
9/21	頸城生活支援ハウス入所判定会議	頸城区総合事務所	市内	地域包括	1
9/25	平成30年度第3回運営推進会議	樹楽上増田運営推進会議	市内	居宅支援、地域包括	2
9/26	上越地域職域健康づくり連絡協議会 第40回 担当者研修会	上越地域職域健康づくり連絡協議会	市内	管理課長	1
9/26~27	第23回新潟県老人福祉施設研究大会	(一社)新潟県老人福祉施設協議会	湯沢町	地域包括	1
9/27~28	第39回関東・甲信越地区身体障害者職員研修	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会	松本市	障害支援	2
9/28	上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修会	上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会 事務局	市内	居宅支援	1
10/2	運営推進会議	社会福祉法人 上越あたご福祉会	市内	地域包括	1
10/4	10月度民生・児童委員協議会 定例会	頸城区民生委員・児童委員協議会	市内	地域包括	1
10/4	社会福祉施設における安全管理・労務管理研修会	上越労働基準監督署	市内	管理課長	1
10/4~6	平成30年度新潟県相談支援従事者初任者研修	(一社)新潟県相談支援専門員協会	新潟市	地域包括	2
10/7	「いきいき人生(翁婆)笑って元気事業」講師	頸城区公民館 明治分館	市内	デイサービス	1
10/9	2018年度 福祉関係者のための成年後見活用講座・ステップアップ編	(公社)新潟県社会福祉士会	三条市	地域包括	1
10/9~10	平成30年度第2回認知症介護指導者養成研修	(社福)浴風会 認知症介護研究・研修東京センター	東京都	高齢介護	1
10/12	平成30年度 全体研修会 身寄りのない方の支援について	(一社)新潟県介護支援専門員協会	三条市	居宅支援	2
10/12	平成30年度 上越地域障害者支援施設協議会 職員意見交換会	上越地域障害者支援施設協議会	糸魚川市	事務	1
10/13	ミュージック・ケア 2018体験セミナーin新潟	新潟ミュージック・ケア研究会ジャンジャンの会	新潟市	機能訓練	1
10/16	第3回上越市地域福祉活動計画策定委員会	上越社会福祉協議会	市内	地域包括	1

10/19	にいがた公的扶助研究セミナー	にいがた公的扶助研究会	市内	地域包括、障害支援	5
10/19	入院時支援のための研修会	上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会	市内	在宅支援	2
10/21	共生地域福祉フォーラム お互いさまの暮らしをめざして	富山ケアネットワーク	富山市	在宅支援、障害支援	6
10/23	2018年度福祉関係者のための成年後見活用講座・ステップアップ編	(公社)新潟県社会福祉士会	新潟市	地域包括	2
10/23	第9回 ふれあい会(グループホームふれあいの社上越)運営推進会議	グループホームふれあいの社 上越	市内	地域包括	1
10/24	第20期(平成30年度)外部研修会	上越地域職域健康づくり連絡協議会	上越地域	管理課長	1
10/24	平成30年度新総合サービス事業所取組発表会	上越市高齢者支援課長	市内	在宅支援、地域包括	4
10/24	第5ブロック部会平成30年度第3回研修会	(一社)新潟県老人福祉施設協議会	市内	施設長	1
10/26	雇用保険手続きにおける電子申請及び働き方改革関連法に関する事業主説明会	上越公共職業安定所	市内	事務長	1
10/26	上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修会	上越市・妙高市在宅医療・介護推進協議会 事務局	市内	在宅支援	1
10/26	平成30年度 新潟県身体障害者施設協議会 支援担当課長会議	新潟県身体障害者施設協議会	長岡市	障害課長、サビ管	2
10/27	医療・健康福祉市民フォーラム 人生の終わりに向け自分らしくどう生きるか	医療・福祉フォーラム実行委員会	市内	高齢介護	2
11/1	2018年度新潟県介護支援専門員協会第5ブロック災害時対応研修会	(一社)新潟県介護支援専門員協会	柏崎市	在宅支援	1
11/3	展示会	株式会社スノエ	長岡市	栄養士	1
11/7~8	平成30年度新潟県介護支援専門員「更新研修」(専門研修課程Ⅱ)・「専門研修」(専門研修課程Ⅱ)	(一社)新潟県介護支援専門員協会	長岡市	高齢介護、在宅支援	3
11/13	上越認知症多職種連携会	武田薬品工業 長岡営業所	市内	地域包括	3
11/14	第20期定期総会	上越地域職域健康づくり連絡協議会	市内	管理課長	1
11/15	平成30年度第2回上越地域障害者支援施設等入所調整会議	新潟県上越市身体障害者支援施設所長、新潟県上越市身体障害者支援施設所長	市内	障害課長、サビ管	2
11/16	介護就職デイ 福祉就職面接会	上越公共職業安定所	市内	事務長	1
11/20	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会 平成30年度 第2回施設長会議の開催について	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会 神奈川県身体障害者施設協議会	東京都	施設長	1
11/20	地域を力をもつ！支援者のためのネットワーク実践力養成研修 後期スクーリング	(公社)新潟県社会福祉士会	新潟市	地域包括	1
11/20	平成30年分 年末調整説明会	高田税務署	市内	事務	2
11/20	集団指導	上越市高齢者支援課	市内	在宅支援	1
11/20~21	平成30年度新潟県介護支援専門員「更新研修」(専門研修課程Ⅱ)・「専門研修」(専門研修課程Ⅱ)	(一社)新潟県介護支援専門員協会	長岡市	高齢介護、在宅支援	3
11/26	平成30年度認知症キャラバン・メイト養成研修	上越市高齢者支援課	市内	在宅支援、地域包括	3
11/26	運営推進会議	(社福)上越あたご福祉会	市内	地域包括	1
11/27	平成30年度部会研修会	新潟県栄養士 上越支部	市内	栄養士	1
11/27	平成30年度頸城区第1回地域ケア会議	しおさいの里地域包括支援センター頸城くらし支援室	市内	高齢介護、在宅支援	5
11/27/28	上越地域障害者支援施設協議会 視察研修	上越地域障害者支援施設協議会	富山市	障害課長	1
11/28	第4回上越市地域福祉活動計画策定委員会	上越市地域福祉活動策定委員会	市内	地域包括	1
11/28	第18回ふくしのひろば 第1回実行委員会	(社福)上越つきの里医療福祉協会	市内	障害課長	1
11/29	障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行に関する説明会	上越市福祉課	市内	相談員	9
11/30	上越地域在宅介護支援事業推進協議会研修会	上越地域在宅介護支援事業推進協議会	市内	在宅支援	3
11/30	平成30年度新潟県身体障害者施設協議会 庶務担当者会議	新潟県身体障害者施設協議会	長岡市	管理課長、事務	2
12/1	社会福祉施設防火管理研修会	上越地域消防事務組合	市内	高齢課長	1
12/7	上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修会	上越市・妙高市在宅医療・介護推進協議会 事務局	市内	在宅支援	1
12/12	くも膜下出血者の在宅支援～自宅で経口摂取が可能になった事例～	新潟労災病院地域医療連携室 入院支援部門	市内	在宅支援	1
12/20	平成30年度介護老人福祉施設等集団指導	新潟県福祉保健部・国保・福祉指導課長	長岡市	高齢課長	1
12/23	第65回 だんらん運営推進会議	株式会社だんらん	市内	地域包括	1
12/28	第10回 ふれあい会(グループホームふれあいの社上越)運営推進会議	グループホームふれあいの社 上越	市内	地域包括	1
1/6	「いきいき人生(節要)笑って元気事業」講師	頸城区公民館 明治分館	市内	デイサービス	1
1/15	平成31年 大潟区新年祝賀会	まちづくり大潟・大潟区地域協議会・大潟区町内会長協議会	市内	理事長、施設長、地域包括	5
1/18	平成30年度 高齢者虐待防止研修会	上越地域振興局健康福祉環境部	市内	高齢介護	2
1/20	森本長寿会サロン講師	老人クラブ森本長寿会	市内	地域包括	1
1/22	平成30年度第5回運営推進会議	樹楽上増田運営推進会議	市内	地域包括	1
1/23	大潟地区民生児童委員協議会情報交換会(新年会)	大潟地区民生委員児童委員協議会	市内	地域包括	3
1/28	平成30年度 青陵大学 社会福祉士実習報告会	新潟青陵大学	新潟市	施設長	1
1/28	大潟愛宕の園 運営推進会議	(社福)上越あたご福祉会	市内	地域包括	1
2/3	「いきいき人生(節要)笑って元気事業」講師	頸城区公民館 明治分館	市内	デイサービス	1
2/7	改正労働基準法等説明会	上越労働基準監督署	市内	管理課長	1
2/8	身体拘束せず」に事故を防ぐ方法	あいおいニッセイ同和損保	新潟市	高齢介護	2
2/14	相談援助実習報告会	新潟医療福祉大学	新潟市	社会福祉士実習指導者	1
2/18	上越老人福祉協会 法人創立46周年事業(シンポジウム)	(社福)上越老人福祉施設協会	市内	地域包括	3
2/20	平成30年度エイシン福祉教育センター スキルアップ研修 介護職員のためのメンタルヘルス	エイシン福祉教育センター	新潟市	施設支援	1
2/20	上越市高齢者自殺予防研修会	上越 健康づくり推進課	市内	地域包括	2
2/21	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会 平成30年度 第2回総会・第3回施設長会議	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会	長野市	施設長	1
2/21	平成30年度HIV感染者・エイズ患者療養支援検討会	上越地域振興局健康福祉環境部	市内	障害課長	1
2/23	ひきこもり支援に行き詰まる支援者のために	(公社)新潟県社会福祉士会	新潟市	地域包括	1
2/23	認知症になっても幸せな社会とは	上越オレンジサポーター	市内	地域包括	1
2/23	だんらん運営推進会議	株式会社だんらん	市内	地域包括	1
2/25	大潟愛宕の園・うつぎの里 避難訓練	(社福)上越あたご福祉会・小規模多機能老人ホーム大潟愛宕の園	市内	地域包括	1
2/25~26	平成30年度 生活相談員研修会	(公社)全国老人福祉施設協議会	東京都	高齢課長、相談	2
2/26	ふれあい会運営推進会議	グループホームふれあいの社上越	市内	在宅支援	1
2/27	高齢者自殺予防研修会	上越地域振興局健康福祉環境部(上越保健所)	市内	地域包括、地域包括	3
2/27	～外部専門看護師・認定看護師等の派遣による特別養護老人ホーム支援モデル～研修会	(一社)新潟県老人福祉施設協議会	市内	看護	1
3/1	平成30年度 新潟県身体障害者施設協議会 第2回総会並びに庶務担当課長会議	新潟県身体障害者施設協議会	長岡市	施設長、障害課長	2
3/1	地域医療における薬剤管理について～頸北・東頸地区の医療・介護に携わる仲間と語りう～	上越医師会 上越地域在宅医療センター	市内	在宅支援、地域包括	7
3/1	上越看護専門学校 卒業式	上越看護専門学校	市内	事務局長	1
3/6	平成30年度 上越地区障害者支援施設協議会 視察研修報告会・総会	上越地域障害者支援施設協議会	糸魚川市	障害課長	1
3/6	地域包括支援センター 第2回地域ケア会議	しおさいの里地域包括支援センター頸城くらし支援室	市内	地域包括	1
3/8	平成30年度総会	頸北防火管理者協会	市内	障害課長	1
3/7	卒業証書授与式	上越保健医療福祉専門学校校長	市内	施設長	1
3/11	「地域支え合い事業」協議体会議	上越社会福祉協議会 大潟支所	市内	地域包括	3
3/12	平成30年度第2回実習指導者会議	上越保健医療福祉専門学校	市内	高齢課長、障害課長	2
3/14	平成30年度新潟県介護施設看護職員研修	新潟県福祉保健部高齢福祉保健課	新潟市	看護	1
3/14	平成30年度第2回総会時研修会「自立支援と介護支援専門員」	(一社)新潟県介護支援専門員協会	三条市	在宅支援	2
3/15	障害者総合支援法等関係説明会	新潟県福祉保健部障害福祉課	新潟市	障害課長、サビ管	2
3/16	アクションフォーラム上越	(独)国立病院機構さいがた医療センター	市内	地域包括	1
3/20	第2回 ケアマネ・訪問看護連携研修会	上越地域在宅医療推進センター	市内	在宅支援	1

3/2	運営推進会議	(社)上越あだこ福祉会 小規模特別養護老人ホーム 大湯養老の園	市内	地域包括	1
3/29	頸城生活支援ハウス入所判定会議	頸城区総合事務所市民生活・福祉グループ	市内	居宅支援	1
					287

平成30年度施設内研修等一覧

日付	研修会名	主催	講師(説明者)	参加人数
4/11,12,17	30年度事業計画及び法令遵守に関する職員説明会	しおさいの里等複合施設	統括施設長	122
5/31	認知症ケア基礎研修(ステップ1)認知症ケアの基礎を学ぶ	しおさいの里等複合施設	認知症介護指導者	9
6/7	口腔ケアに関する研修会	食事委員会	小山歯科医師、岩内歯科衛生士、奥原歯科衛生士	17
6/19	食中毒予防に関する研修会	衛生委員会・感染症対策委員会	二ノ倉管理栄養士	22
7/2	介護技術向上基礎研修会	ケア向上委員会	委員	17
7/18	認知症ケア研修(ステップ2:実践研修①)認知症ケアの倫理と理念	しおさいの里等複合施設	認知症介護指導者	9
7/31	事故防止に関する研修会(リスクマネジメント、事故削減に向けた意識改革)	事故防止委員会	委員	18
8/1	看取りケアに関する研修会	人権意識向上委員会	委員	21
9/19	認知症ケアに関する研修(ステップ2:実践研修②)認知症の理解とBPSDの対応	しおさいの里等複合施設	認知症介護指導者	8
9/27	疥癬対応・疥癬マニュアル変更に関する研修会	感染症対策委員会	委員	19
10/25	メンタルヘルス研修(アンガーマネジメント～怒りのコントロール～)	衛生委員会	アンガーマネジメントファシリテータ 山岸様	39
11/21	身体拘束廃止・虐待防止研修会(家族から「転ばせないで、縛っておいて」と言われたとき①)	人権意識向上委員会・身体拘束ゼロ推進委員会	委員	20
11/29	痰吸引実務研修	事故防止委員会	委員	18
12/19	介護技術研修会(急変時やいざという時、あなたはどうか対応しますか)	ケア向上委員会	委員	18
1/16	認知症ケア研修(チームワークを立ち上げる)	しおさいの里等複合施設	認知症介護指導者	11
2/13	身体拘束廃止・虐待防止研修会(家族から「転ばせないで、縛っておいて」と言われたとき②)	人権意識向上委員会	委員	17
3/20	認知症介護実践者等養成事業のカリキュラムにおける成果報告会	DCUプロジェクト	委員	19
				404

職員資格取得状況一覧(述べ数)

資格・免許		平成30年4月1日現在	平成31年4月1日現在	増減
看護・機能訓練等	看護師	8	8	0
	准看護師	8	7	-1
	作業療法士	1	1	0
	あんまマッサージ指圧師	1	1	0
	歯科衛生士	1	1	0
介護	衛生管理者	1	1	0
	介護福祉士	79	81	2
	実務者研修(旧ヘルパー1級)	13	14	1
	介護職員初任者研修(旧ヘルパー2級)	37	39	2
	認定特定行為業務従事者(50時間研修修了者)	12	19	7
	認定特定行為業務従事者(14時間研修修了者)	41	37	-4
	認知症介護実践者研修修了	7	13	6
	認知症介護実践リーダー研修修了	1	2	1
	認知症介護指導者養成研修修了	1	2	1
相談援助	主任介護支援専門員	3	3	0
	介護支援専門員	23	22	-1
	社会福祉士	9	10	1
	精神保健福祉士	5	5	0
	サービス管理責任者	5	5	0
	社会福祉士主任任用資格	31	30	-1
栄養	管理栄養士	1	1	0
	栄養士	1	1	0
	調理師	8	8	0
計		297	311	14

*4月1日付採用内定者含む

特別休暇(自己啓発援助制度)の取得状況

資格	休暇申請者数	休暇取得日数(延べ)
認知症介護指導者	1	14日

外部実習受入及び地域交流等の状況(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

1) 専門実習、福祉体験学習等受入の状況

日付	実習名	依頼元団体	受入部門	人数
5/15～16、他8回	老年看護学Ⅰ実習	上越看護専門学校	しおさいの里	42
6/19	施設見学	南さくら工房保護者会	しおさいの里等複合施設	10
6/11～27、10/9～25	社会福祉援助技術現場実習	新潟青陵大学	しおさいの里等複合施設	2
6/4～15	現場実習	新潟県立高田特別支援学校	デイサービス	1
6/18～30	保育実習Ⅰ	新潟こども医療専門学校	さいはま園	1
6/27、他4回	じよんのびカフェ	夕映えの郷	さいはま園	150
7/3、他8回	在宅看護論実習	上越看護専門学校	地域包括支援センター	9
7/9～13	職場体験学習(上越ゆめチャレンジ)	上越市立大潟町中学校2学年	しおさいの里、さいはま園、デイサービス	5
7/10、13、12/26	ふれあい交流	上越市立はまっこ保育園	デイサービス	40
4/24	施設見学	新潟県身体障害者施設協議会職員研修	さいはま園	10
8/20～9/20	相談援助実習Ⅲ	新潟医療福祉大学	しおさいの里等複合施設	1
8/29～31	インターンシップ	新潟インターンシップ2018(駒沢大学)	しおさいの里等複合施設	1
8/28	地域包括支援センター実習	新潟県立看護大学	地域包括支援センター	7
9/3～7	教員免許取得に係る介護等体験	姫路大学	デイサービス	1
9/11	視察研修	柿崎地区民生委員児童委員協議会	しおさいの里等複合施設	30
11/2	認知症介護実践者研修現場実習	特別養護老人ホームみなかみの里	しおさいの里	1
11/9	入浴機器見学	特別養護老人ホームほくら園	しおさいの里	5
11/12～24	インターンシップ	国際調理製菓専門学校	管理課厨房部門	1
11/14、19、21	利用者交流(総合的学習)	上越市立大潟町中学校3学年	しおさいの里、デイサービス	18
11/22	施設見学	新潟盲学校	しおさいの里等複合施設	1
11/23	清掃活動	大潟町中学校奉仕クラブ	しおさいの里等複合施設	30
1/31	介護予防事業等見学	社会福祉法人新井頭南福祉会	しおさいの里等複合施設	4
3/3～9	保育実習Ⅰ	山梨学院短期大学	さいはま園	1
3/29	施設見学	特別養護老人ホーム沖見の里	しおさいの里	4
				375

2) イベント開催・参加等の状況

日付	名称(場所)	概要	参加数
4/5他16回	地域サロンへの講師派遣	体力測定や転倒予防の体操、認知症や生活習慣病予防の講話(地域包括支援センター)	250
7/28、11/10	うみまちフリーマーケット	地域住民ならびに団体に施設内を開放し、フリーマーケットを通じた施設と地域との交流を促進する	200
4/12他9回	町内会、老人会等への講師派遣	地域支え合い事業の紹介、認知症に関する講話等(地域包括支援センター)	142
6/3	ガス水道フェアでの出張カフェ(認知症カフェうみまち茶屋)	おおがたかっぱ祭りと同日に行われる水道フェアに出店し、認知症に関する地域への啓発活動を行う	150
6/9	「第17回ふくしのひろば」(リージョンプラザ上越)への参加	アダプテッド・スポーツ(年齢や障がい問わず、誰もが参加できるスポーツ)の体験交流会の実施(さいはま園)	200
6/25	地域貢献(社会奉仕)活動の実施	職員とその子どもが参加し、犀潟児童遊園の環境整備を実施(しおさいの里等複合施設・犀潟町内会合同)	7
7/31、12/7	施設内訪問衣類販売会	施設利用者に買い物の機会を提供する	200
7/14	「おおがたセタ☆絆まつり」(大潟コミュニティプラザ)への参加	利用者の作品展示、介護相談、福祉用具展示、スポーツの体験会等の開催(夕映えの郷と合同参加)	650
7/14	「おおがたセタ☆絆まつり」での出張カフェ(うみまち茶屋)	認知症カフェうみまち茶屋を出店し、認知症に関する地域への啓発活動を行う。	227
8/2他4回	認知症サポーター養成講座の開催	認知症を正しく理解し、認知症の人への「応援者」の養成(地域包括支援センター)	141
9/15	RUN伴(らんととも)への参加	NPO法人認知症フレンドシップクラブが主催する認知症啓発イベントに法人として参加する	50
11/27、全3回	地域ケア会議	地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みとして、地域の関係者で地域課題を協議(地域包括支援センター)	136

2/23	認知症にやさしい地域づくり in 直江津(上越市地域活動支援事業)	認知症に関する啓発イベント(地域包括支援センターとして認知症カフェの事例発表、しおさいの里チクチク倶楽部も参加)	50
			2403

3) 介護予防事業(ココカラプロジェクト「だんだん広場」)開催状況

クラス名	開催時期	場所	実施回数	延参加人数
うのはなクラス	週1回(火曜日)	上越市大潟保健センター	48回	1,313人
さいがたクラス	週1回(水曜日)	しおさいの里ボランティアルーム	48回	1,407人
さいがたクラス	週1回(木曜日)	しおさいの里ボランティアルーム	46回	1,314人
合計			142回	4,034人

4) 上越市地域支え合い事業 (まちづくり大潟委託事業)

日付	名称(場所)	概要	延参加人数
4/13他,全11回	介護者家族の集い	介護者の悩み相談、介護者同士の情報交換の場、介護者教室(地域包括支援センター)	84人
4/27他,全12回	認知症カフェ「うみまち茶屋」	認知症の人やその家族、地域住民等が気軽に集い交流を図ったり、認知症について情報交換を行う場(地域包括支援センター)	393人
4/4他,全47回	介護予防教室「だんだん広場」水曜クラス	介護予防に筋力維持や改善、認知症予防等を目的とした体操やレクリエーションの実施するとともに、参加者同士が交流することによる生きがいづくりや社会参加促進の取り組みとして実施する	1,407人

(くびき振興会運営支援)

日付	名称(場所)	概要
4/10他,全38回	新すまいるエイジング	介護予防教室での血圧測定や参加者の様子観察、健康に関する(地域包括支援センター)
11/28他,全3回	認知症カフェ「あやめ茶屋」	認知症の人やその家族、地域住民等が気軽に集い交流を図ったり、認知症について情報交換を行う場(地域包括支援センター)

5) ボランティア受入の状況

延受入回数	30年度:255回 (29年度:292回)	内容:利用者交流(お話等)、繕い物、納涼祭等のイベント補助、余興(踊り、唄、太鼓披露等)、美容、生け花指導、書道指導、ハンドマッサージ、介護予防教室運営補助、認知症カフェ運営補助、クラブ活動補助、リネン交換、ラーメンの提供、その他
延受入人数	30年度:815人 (29年度:915人)	

6) 施設設備・備品等の地域への開放・貸出

内容(30年度):フリーマーケットでの施設開放、介護者教室の開催(施設の開放、介護技術の提供)、地域交流スペース(ボランティアルーム)の貸出(認知症キャラバンメイト等)

7) 広報活動等

名称	発行日等	備考
公式ホームページ(http://www.siosainosato.jp)	随時更新	年間アクセス数19,588件(月平均1,632アクセス)
あっと・ホーム	毎月1回発行	特養部門ご家族に配布
じよんのび・ネット	毎月1回発行	さいはま園ご家族に配布
ゆりかご通信	毎月1回発行	デイサービスセンターご家族に配布
上越タイムス	年3回掲載(8月、1月、3月)	施設紹介を兼ねた介護特集・協賛広告を掲載
新潟日報朝刊	H30.6月～H31.3月(計9回掲載)	新潟・認知症キャンペーン「オレンジの輪」への協賛広告
新潟日報朝刊	1/1付け朝刊	年賀名刺広告
地域包括支援センター周知チラシ	H30.4月発行	大潟区・頸城区全戸配布(約6200部)

苦情解決の状況

1) 苦情受付期間

平成30年4月1日～平成31年3月31日

2) 苦情受付件数

年度	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度	25年度
件数	7件	6件	4件	2件	5件	6件

(6件の事業別内訳)

複合施設全体	特養(入所)	特養(短期)	通所介護	居宅介護支援	地域包括支援	障害支援	その他
	4	1	1			1	

3) 苦情申出人の状況

	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度	25年度
ご利用者本人	2件	3件	2件	2件	1件	2件
ご家族・身元引受人	4件	3件	1件	件	3件	3件
第三者(介護支援専門員等)	1件	件	1件	件	1件	1件

4) 苦情の内容

No.1	内容	同室者の声がうるさい。またカーテン越しに覗かれている。静かな部屋で安心して過ごしたい。(特養)
	原因	同室者(利用者)同士でのコミュニケーションが上手く回れないこと等によるトラブルが続いていたこと。
	対応	職員が積極的に話を聞き、関わるとともに、以前から希望のあった個室が空くタイミングで部屋の移動を行った。
	結果	その後の訴えはなし。静かな環境で安心して生活できるとのこと。
No.2	内容	利用者および施設内での疥癬の発生状況について、その後の経過報告が家族になく、困惑している。(特養)
	原因	施設側の情報伝達不足。
	対応	説明が不足していたことについて謝罪するとともに、当該利用者の皮膚の回復状況について説明を行った。また、全利用者の家族に対し、施設内での発生状況について書面にまとめて郵送した。
結果	申出者よりご理解をいただいた。	
No.3	内容	居室に設置してある加湿器の給水が滞っていることが多いので感染症予防の観点からも細心の注意をお願いしたい。(特養)
	原因	職員が定時に給水を行うようになっていたが、職員間での周知、共有が不足していたこと。
	対応	給水への配慮が不足していたこと、ならびに職員間で共有ができていなかったことについて謝罪する。また、感染症対策に一層の注意を払っていくことを説明する。
	結果	申出者よりご理解をいただいた。
No.4	内容	ショートステイを初めて経験する利用者が「夜間に自宅に帰りたい」と居室から出てこられる等、落ち着かない様子に対し、後日、夜勤職員から担当ケアマネに対し「情報と違う」等、利用者を悪く言うような発言を受けたが筋違いではないか。(特養・ショートステイ)
	原因	職員の言動が「利用者主体」の観点からかけ離れていたこと。
	対応	誤った言動について、管理職から該当職員に対し指導を行った。
結果	利用者が安心して気持ちよく利用するためには関係する職種やスタッフが同じ方向性をもって支援にあたる必要があることを再確認する機会となる。	
No.5	内容	入浴介助時、利用者本人より「水のシャワーをかけられた」と家族に訴えがある。本人が切ない思いをしないよう、対応を改めてほしい。(ショートステイ)
	原因	冬期間の入浴時においては、浴室内の暖房をはじめ衣類着脱時の寒さへの配慮、浴室用寝台の温め、シャワー湯温の調整等の対応を行っていたつもりであったが、当日は最初の入浴者であり、浴室内が完全に温まらない中で入浴介助を行ったと考えられ、ご本人につらい思いをさせてしまった。
	対応	申出者に謝罪し、本人に配慮した入浴介助の方法を再確認していくことを伝える。
	結果	申出人よりご理解をいただいた。
No.6	内容	デイサービス利用日の朝は、(家族の負担軽減のため)経管栄養をセンターで入れてもらうことになっていたが、(家族が)間違えて自宅で入れてしまったと送迎時の職員に伝えたところ、「栄養を入れてもらったほうが助かります」との回答が繰り返しあり、不快な思いをした。(デイサービス)
	原因	職員間で情報の共有がなされておらず、また回答した内容が家族の意に反するものであった。
	対応	申出人に謝罪し、職員間の情報共有体制や言動について改めることを伝える。
結果	申出人よりご理解をいただいた。	
No.7	内容	面会時に行ったときの当該利用者への職員の対応や言葉かけが気になる。もっと本人の病気のことを理解してほしい。(障害支援)
	原因	職員の言動や家族への説明内容が家族の意に反するものであった。
	対応	申出人に謝罪し、家族にとっても安心して利用していただけるよう、面会時には最近の様子を伝える等、家族とのコミュニケーションも十分に図っていくことを伝える。
	結果	申出人よりご理解をいただいた。

平成30年度地域包括支援センター運営事業報告書

しおさいの里地域包括支援センター

①総合相談支援

○相談件数

相談延件数	月平均件数
1,601	133

○相談経路及び方法

<相談経路>

	相談延件数	月平均件数
本人	661	55
家族等	489	41
関係機関	26	2
相談協力員	407	34
その他	18	2

<相談方法>

	相談延件数	月平均件数
電話	649	54
文書	5	0
来所	286	24
訪問	645	54
巡回	16	1

・4月から担当地区となった頸城区は町内会長会、民生・児童委員協議会、地域協議会、老人クラブ連合会等でセンターの周知を図るとともにネットワークの構築に努めた。

・大湊区、頸城区ともに民生・児童委員協議会定例会に出席し、民生・児童委員との顔の見える関係の構築に努めている。

・地域住民に対してセンターのリーフレットを全戸配布したり、健康診査会場でセンターのリーフレットや介護予防等に関するパンフレットを配布し、センターの周知に努めた。

・市主催の「すこやかに老いるための市民講座」ではセンターの取り組みを紹介し、役割を理解していただくことができた。

・大湊区、頸城区ともに総合事務所と近い場所に事務所があることから総合事務所に相談に行かれた方はそのままセンターに寄り、すぐに相談支援ができるようになっている。

(1)実態把握

実態把握延件数	月平均件数
374	31

年間目標720件。達成率は52%。上半期は業務の調整ができなかったが、会議で反省点を踏まえ話し合いを行い、12月～2月には業務の調整を集中的に訪問活動を行った。次年度は一人月10件を目標に設定し、毎月の会議で訪問状況を確認しながら一人一人が意識をもって訪問できるようにしていく。

②権利擁護

○権利擁護に関する相談

	相談延件数
虐待(疑いを含む)	44
消費者被害	1
多重債務	0
日常生活自立支援事業	0
成年後見制度	25

(1)成年後見制度、日常生活自立支援事業

成年後見等に関する相談者は5名。うち3件の申し立て支援をした。申立人は本人、四親等以内の親族で書類の作成が難しい場合には関係機関と調整等を行い、書類作成の支援を行っている。

今後も認知症高齢者の増加や精神障害者が高齢分野に移行してくることが予想されており、金銭管理や身上監護で支援が必要な場合には制度の説明とともに申し立てが必要な場合には関係者と協力して支援をしていく。

(2) 高齢者虐待への対応

相談受付が3件。通報者は親族2名、担当ケアマネ1件。3件とも事実確認を行い、虐待の事実があると判断した。虐待の種類は身体的虐待3件、放棄・放任2件、心理的虐待2件、経済的虐待1件であった。上越市高齢者虐待防止マニュアルに沿って区総合事務所と連携を図り、コアメンバー会議、対応評価会議を実施し、ショートステイ等で介護者と分離したり、家族と介護方法等について助言や指導等によっていずれも終結している。

(3) 困難事例への対応

高齢者虐待に限らず、介護支援専門員から困難事例の相談があった場合には区総合事務所と情報共有し、連携を図りながら支援を行っている。必要に応じて関係者や関係機関と個別ケース会議を開催するなど多職種協働において支援ができた。

(4) 消費者被害防止

実態把握や集会等で特殊詐欺などの消費者被害に遭わないように話をしたり、訴訟等に関するハガキのコピーを配布するなど地域に啓発活動を行っている。「過去に訪問販売で消火器を売られそうになった時に困った」との相談があり、対応方法について助言を行った。

③ 包括的・継続的ケアマネジメント業務

(1) 地域ケア会議

	開催日	内容	参加人数
第1回	11月27日	みんなが暮らしやすい地域づくりを考えよう	65名
第2回	3月6日	どうすれば誰もが孤立せずに暮らすことができるのか	65名
第3回	3月15日	精神疾患の方に関する支援方法について	21名

第1回、2回は頸城区を対象に実施し、地域住民が主体となって地域課題を把握し、課題解決に向けての取り組みについて考えることができた。2回の会議を通じて頸城区の現状を地域包括職員も把握することができた。第3回は大潟区、頸城区ともに精神疾患に関する相談等が多あることから、両区合同の会議でさいがた医療センターの阿部義隆医療社会事業専門員を講師に地域のケアマネ等と医療と介護の連携についてお互いの役割を共通理解することができた。

(2) 介護支援専門員に対する支援

	相談延件数
担当者会議	11
同行訪問	19
単独訪問	3
社会資源の紹介	7
関係機関の調整	29
ケアマネへの研修会	1
本庁・総合事務所への連絡	5

日頃から介護支援専門員から電話で相談を受けたりすることもあるが、来所時や事業所の訪問時に情報の共有を図ることで連携しやすい関係を構築している。

地域包括支援センター主催の研修会は実施していないが、事業所間同士の研修会で企画の支援、講師の派遣、研修会の参加など介護支援専門員とともに資質向上に向けた取り組みを行った。

(3) 個別地域ケア会議

大潟区と頸城区でそれぞれ3回ずつ、計6回実施した。毎回ではないが、医師や歯科医師から参加をいただくことができた。また民生・児童委員からも多くの参加をいただき、多職種で事例を深めることができた。

④ 第1号指定介護予防支援(介護予防マネジメント)

○認定者の状況(平成31年3月末現在)

チェックリスト	認定者数		予防給付		介護予防ケアマネジメント	
	要支援1	要支援2	利用者数	うち委託数	利用者数	うち委託数
57	109	157	158	106	80	37

総合事業のみの場合は基本チェックリストを実施し、アセスメントをする中で福祉用具の必要性がある場合には介護保険の申請をするなど自立に向けた支援を段階的に行うようにしている。また、全体の業務バランスを考え、利用者の意向を確認しながら居宅介護支援事業所に委託している。またサービス担当者会議には可能な限り参加し、利用者の情報共有や自立支援について協議するようにしている。

⑤介護予防に関する普及・啓発を行う事業

(1)地域支え合い事業

大湊区ではまちづくり大湊から介護予防教室、介護者家族のつどい、認知症カフェの再委託を受け、事業を実施している。

頸城区ではくびき振興会から介護予防教室の協力依頼があり、毎回、血圧測定や参加者の状況を確認する。頸城区では区総合事務所と連携を図り、生活支援コーディネーターに認知症カフェの開催に向けた企画や運営の協力により、3回実施することができた。

(2)認知症サポーター養成講座

地域の認知症キャラバン・メイトの活動に協力し、児童クラブや上越薬剤師会で開催した認知症サポーター養成講座に協力している。また、地域包括支援センター職員2名も新たにキャラバン・メイト養成講座を受講し、地域包括支援センターとしても認知症サポーター養成講座を開催できる体制になっている。

(3)講師依頼

日程	事業名	参加者数	内容
4月5日	渋柿浜いきいきサロン	21名	介護保険の説明、脳トレ
4月12日	やすらぎの家いきいきサロン	5名	介護保険の説明、健康講話
4月12日	土底浜老人会	6名	地域包括支援センターの役割について
4月18日	下小船津浜いきいきサロン	23名	体力測定、健康講話
4月19日	土底浜いきいきサロン	16名	体力測定、健康講話
4月19日	坂田サロン	10名	地域包括紹介、脳トレ
4月22日	畑ヶ崎すこやかサロン	12名	地域包括紹介、健康講話、血圧測定
4月24日	上小船津浜いきいきサロン	22名	体力測定、健康講話
5月15日	柳町サロン	18名	健康講話、体操
6月6日	西福島1区健康講座	9名	地域包括紹介、健康講話
6月28日	犀潟いきいきサロン	23名	体力測定、健康講話
7月1日	明治サロン	20名	血圧測定、健康体操
7月19日	坂田サロン	8名	健康講話、体操
7月25日	森本老人会	13名	健康講話、体操
8月28日	上小船津浜いきいきサロン	9名	健康講話
10月15日	柳町サロン	18名	健康講話、体操
10月18日	坂田サロン	13名	健康講話、体操
10月31日	JA助け合い事業	40名	健康講話、体操
11月13日	西福島1区健康講座	10名	健康講話
12月8日	老人クラブ百寿会	20名	健康講話
12月14日	老人クラブ会長会議	22名	地域包括紹介、健康講話
2月10日	老人クラブ花ヶ崎寿会	18名	健康講話、介護保険の説明
2月21日	坂田サロン	9名	健康講話
2月22日	メンズサロン	18名	健康講話
3月3日	明治分館いきいき元気事業	11名	健康講話
3月14日	やすらぎの家いきいきサロン	25名	健康講話